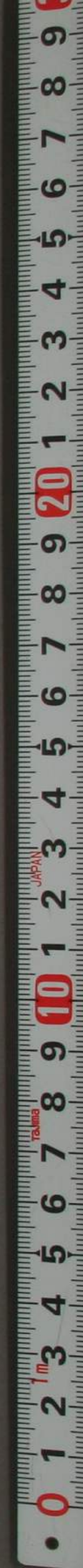


扶桑皇統記圖會
後編
二

遠
2505
13-9



遠
冊 2505
巻 13-9

扶桑皇統記圖會後編卷之二目錄

山城國鞍馬寺開基

奉延法師退治大蛇條

奥州夷賊蜂起官軍敗績

重而東征使下向條

鞍馬の峰延法力を以て大蛇を退治する圖

感靈黃女養得奇子

坂上田村丸遇延鎮傳

官軍与夷賊于奥羽合戦

田村丸武勇討大熊丸條

田村丸明智賊の幻術を挫き賊將大熊丸を討つ圖

三卷 已開會後編卷之二

毘沙門地藏の二尊雲中小頭と田村凡が軍を援けの図

延鎮語兩股士奇侍 田村凡建立清水寺條

乾臨閣御遊緒繼昇進 老人星出現大赦支

平城天皇御即位并讓位 嵯峨天皇受禪南都擾乱

天皇加茂齋院御幸 有智子齋院詩作條

浅山五五遭盜難入水 渙父兵太湖上助浅山事

浅山五五湖水不陷渙父の為小一命を助る圖 終

林采皇統記圖會後編卷之二

浪華 好華堂野亭参考

山城國鞍馬寺開基 峰延法師退治大蛇條

學小中大夫藤原伊勢人といふ人あり佛道小飯依と深く觀音菩薩と

信仰し何卒一個の靈地を得て佛堂を建立し觀音の尊像を安置せむ

やと多年心小思暮々小延曆九年冬十月頃一夜の夢小遇然とて洛北乃

山中へ行くとところ白髮の老翁一人出來り伊勢人小告て曰此山を天下無双乃

靈地小く山の形三鉈杵小似く常小五色の雲變隼り你此地小佛場と稱

む其利益廣大小て福を得度無量なりと示し小く伊勢人大小悦び

再拜と尊公羽ハ何人小て在ると云と向々小翁答て云ハ是王城の鎮守貴

船明神なりと告めると見て夢ハ覺々る伊勢人靈夢の御告と感悦する



とりふも其夢小入山と何所なる更と記憶と是小依て思煩ひ多ぶつ
 ぐ思惟これ馬八靈（八霊）小く路を知とる我騎とるの白馬ハハ我心小
 合（合）名馬なり渠と追放して夢小入一靈地を尋（尋）り若くハ彼地を知更
 有んくて件（件）の白馬を曳出（曳出）し鞍を置（置）車を咄（咄）せ諸馬小向（向）古の管仲が馬
 と雪中小路を知て諸軍と導（導）すれ帰（帰）しとを你も我夢小見一山中と尋（尋）ひ
 知しめよと言（言）せ一人の童子と馬小隨（隨）ハりて追放（追放）しる小白馬ハ京城の北へ
 走り遙くと川を渡り谷を過て一座の山小到り其最の中（中）小流りて數声嘶（嘶）れ
 くる由童子其地小標を立置馬を曳（曳）て立（立）り伊勢小斯と告（告）れ大い小
 怡（怡）び童子と引路とて其地（地）いり四辺を巡見小拾り夢小見（見）るところと此も
 違ハる伊勢人白馬の靈織（靈織）を感（感）し山中と徘徊とる小草茅乃中（中）小於（於）鬼沙
 門天の像を拾得（拾得）り伊勢人奇特の更小思（思）ひ立帰（立帰）り工匠小命（命）彼地小一

宇の寺（宇の寺）建（建）立（立）拾得（拾得）る毗沙（毗沙）門天の像と安置（安置）し鞍置（鞍置）る馬の知（知）せ地（地）あれ
 ぐと鞍馬寺と号（号）しる（又）獅子頭山も（又）松尾山も（又）小伊勢人思（思）ひくるハ我（我）多年觀音の像
 於安置せん志願（志願）かりくる小毗沙（毗沙）門天の像と得（得）り於（於）以（以）て寺と建（建）立（立）るとり
 どもいよ旧の宿願を果（果）すと心満足（満足）せるとる小其夜の夢小天童一人出
 現し你毘沙（毘沙）門天を得（得）ていよ念願を果（果）すと思（思）ふも觀音と毘沙（毘沙）門天
 異なるも其本同（同）一（一）跡（跡）あれど你が念願（念願）己小満足（満足）せりと告（告）るとひく夢（夢）見（見）る
 伊勢人是より疑心（疑心）忽ち解（解）脱（脱）し（又）後日小別（別）一寺と建（建）立（立）り
 觀音（觀音）大士の像を安置（安置）しる今鞍馬寺の西（西）多（多）觀音院是（是）なり斯（斯）て後諸
 人鞍馬寺の多門天を信（信）祈（祈）る小靈驗灼然（灼然）ある更（更）卿音の物小應（應）るとるが如（如）く祈
 願（願）として成就（成就）せるとり更（更）に殊（殊）更（更）富貴を予（予）の事端（事端）的（的）に貴賤（貴賤）の參（參）詣（詣）日
 小絶（絶）る更（更）かり後（後）年（年）峯（峯）延（延）法（法）師（師）とて勇（勇）猛（猛）精（精）進（進）の僧（僧）鞍馬寺小住（住）侶（侶）も小

其比後の山の溪間小大蛇栖ぐ時、寺僧土民を吞食其害小遭者少くされ
む僧俗とも大いふ是を愁ひ多峰延此妖孽を退んと六月廿日後堂不於
て大護摩を修せしむる日中の比異風俄小吹起り北嶺より件の大蛇岩を
動し樹を仆して出来りぬ其射眼ハ鏡の如く紅の舌ハ火焰小一般より侍者乃
僧大いふ發た恐き師を捨て逃走り伏峰延此も動せざる頻小毘沙門天
の真言を誦せしむるを不思議や一天小黒雲群り起り怒風砂石を吹捲と
ひくく彼大蛇忽ち段々小斬きて死しつゝ其後緒人弛集りくつる小兵
流まろく河水のぞく切まろく肉ハ岳の如く是偏小峰延和尚の行力も毗沙門天
の威神力を顯しもつとろかりと。諸人感し怖ひたる。諸土人四五十人寄大蛇の
死肉を静原山へ運ひ棄る。それより其地を大蛇峰とぞ稱しつゝ今小いさ
やまで六月廿日小竹切といふ行吏を修するハ彼大蛇を斬り遺意也と云々

奥州夷賊蜂起官軍敗績

重而東征使下向條

桓武天皇平安城の新宮小遷幸かゝり後菅原真道藤原葛野石原小
命て新都の内小於て公卿百官の宅地を割定て頒与せしむる。百官百
司大いふ悦び各居宅を構へ移住したる。奈良長岡木の士農工商もはく
我先むと新都へ引移りしむる。都の繁昌たつた。最賑しく穩かりたる。忽
ち東國より急馬追ふ。菟着奥州小大熊石原とや夷賊蜂起して郡縣を劫
り掠め其逆威猛烈なる。國司も制する能はず。一國の強動以の外あり
の間急だ征討の大將を下し給り。帝大いふ發た各多の群臣を
召れり。御拜議の上參議紀古佐美を征東大將軍小任下て節刀を賜り高
田道成を副將軍と。池田真牧を中軍の別將と。安倍墨繩を先陣と定
め官軍二万騎を授けしむる。是小依て諸將勅命を奉り。花や小軍装を



龍
火
吐
く
大
蛇
退
治
す



鞍馬の
峰の
延法
力
大蛇と
退治
す

延
法
力

龍
火
吐
く
大
蛇
退
治
す

三

整一節ノ使の大旗を真先小押を東小向と首途の鎬三度放し意氣揚々と都と進發し多も勇ましく見え小多斯て官軍與つた下著一國人小案内さ色衣川の此方小陣宮と構賊軍と二戦小蹴散さんと軍を定め四五日兵馬の疲労と休め己小三軍労忘れんを明日戦を催さんと宵と準備をり曉方小兵糧をうひ朝露のま露をうらより先陣二陣段小押出衣川の岸までうら川向をんせを賊軍小出張せと覚く川霧深く空電る中より楯を敲れ衣服を鳴と喊を噓とど發ける官軍是を夕備ハ賊徒北岸へ出張せと二戦小蹴散せといまど大将の下知もあれ小逸雄の着者ともはく関を合川岸小並んで鉄を揃く雨のぞく矢を射れ賊方よりも矢を射終互小矢軍小時をうも内霧まど小霞るるも先陣墨繩の麾下會津社土名大伴

五百冠亦何時まで矢種を費をばれ只少渡で蹴散せよと年許た三百騎五百騎追く小川を渡り太刀拔連喊をせ殺てそくれも楯の蔭小ひれ賊軍圍をも合まて静り及て在れ官軍も敵小謀針ありやと疑ひ少時猶豫々々も末賊將大熊丸の幕下小智力の者有て京軍と欺んとまた草木偶を造り紙を甲冑と作り著旗旗も紙を以て大勢屯せし休小とてを其後小二百人をうの士率とわれ仮小喊を發り矢を射させると京軍の川をさる時小賊兵皆退れ山蔭社中あご小埋伏せたり官軍を敵ふるも偽の針ありともあどよ敵小少くの謀針ありとも何程乃更う有るれや伐やと呼り勢ひ猛く鋒を揃くもてうれを素り草木偶のこよ太刀の當らぬまれおちと休せると京軍是をうくられ皆草土偶なり是よりて衆率大の腹を悪れ賊徒の謀針あとして蹴散る

け拔て向をえぬ。山根小旗旗を翻して賊軍をせり休たれぬ。あれ伐散せよ
 と強り行先陣の大將墨繩、賊軍を憤り味方小旗を續て馳せり。是
 もまき空陣なり。衆兵憫みて長途を励み強り人も馬も疲れける由へ
 勢を多く少時息を休るところ不思ひもぬ。山落より一千騎余の賊兵殺
 出。衣川の北岸小群と京軍の歸る路を切塞る。京軍は須波敵ハ
 彼所出く歸る路を塞ると憎も憎一人余をせよと叫り強り向ハ
 人とせる内此所彼所の杜林竹藪多し。二百騎三百騎の賊兵追て小起
 り。互に果て隊もまざる官軍小旗を射りけ喊を發て伐てくる官軍又是ハ
 強たぬ物くやと敵もさるる合鎬を削つて戦てり。不意とちれり。心周
 障隊乱して見えたる所。又賊將大熊九千騎を將り山落より殺出。官
 軍中、小とう電雨の如く矢を射りけ喚た叫んで攻まくる。官軍は強

義とかり隊散乱て手負戦死数をあつて會津壯九、大伴五百餘を先とて先
 眞の勇士十余人戦死。墨繩も矢を二筋射付れ。這くの体も敗走する。賊軍
 を勝小乗て八方より探まくる。官軍は惣敗軍とあり耻を知る武士も乱
 軍の中戦死。或敵と刺違て死。言甲斐たれ。敵も追捲られ。川水も溺
 是。劉永沈人など死亡するも多し。二陣の池田真牧も先陣を救ふ。川岸追
 けつ。北岸の賊兵の為散く射瘡られ。且敵の伏兵起りて不意ハ
 伐まくる。此隊も散く。敗軍。三陣の高田道成是を救ふ。並付け。賊軍
 の伏兵も困まれ。主將道成戦死。士平も多し。討て敗走。惣大將紀古佐美
 味方の敗軍とまき是を救ふ。早追。味方の敗軍逃来り。味方物敗軍
 とかり。更ふれ。今六脚陣あり。と言ふ。小より敗軍と収て。國府まで退き勢
 成點檢ともふ。死亡の者二千五百余人。手負千二百余人。及び敵の首と討取。更

百五十級も足ざりぬを三軍大い氣を屈し再び戦入義勢もわく二十日許引
 籠りて後小軍の絆縶おのれ見送りぬを賊徒の京軍と縋り遅れ不横行
 と郡御と劫掠めぐる也日官軍の陣ゆる者絶間々見不依て古佐美
 緒將と高議し出陣して戦ひを挑むとすも毎度賊の謀計小陥りて敗軍し
 只兵を折ぐのまれば終不奥洲の在陣叶ふをすごとと京都逃上り多る帝亦
 逆鱗在り大將軍古佐美を召出され軍慮拙く見苦れ敗軍して多く兵を
 折れも罪と責めひくも古佐美忍入先陣墨繩敵を遅れ慮りかく敵の
 謀計小中と兵士を多く折れし味方銳氣を屈し其より兵勢弱り敗績せし
 趣れを奏し多るも帝漸く古佐美罪と省と内居せしめり真牧墨繩の
 兩人官と剥ぎ追放させし其後又文武の諸臣を召集めし東夷と征
 伐せしむる大將を維彼と御絆縶あり衆議不依て大伴弟大呂と征東大

將軍小任。百済王俊哲。藤原真鸞。坂上田村。大呂。二人を副將軍と定めし
 官軍二万二千騎を授け急だ奥洲へ弛下り兇徒を不日小殊伐せしむる官軍
 を下され猶も東海東山両道の四司守護人軍兵を出て東使小加勢す
 るれ旨と命のひたり大伴弟大呂俊哲真鸞田村九の將勅命と奉りて
 軍装美く整都と進發して奥洲へ掃ふとんて下りける
 感靈夢大養得奇子 坂上田村九遇延鎮條
 抑今度東夷征伐の副將軍小任せしめる中の一人坂上田村九といふは從三位右
 衛門督坂上田村丸の嫡男正四位上大養の子なり大養年四旬を超るまで一
 子ありを教た夫婦初瀬の觀音小祈誓うけ七日泰筆電して万望一子を授
 めんと信心を凝して祈りける小便生端正福徳智恵之男の誓願を下りて
 七日満ちる夜の暁の夢小金甲と誓い戦を推す神人出現し大養の妻乃

口中飛入りて覺多。夫妻ひくく夢と語合ふ。小僧の夢を
 一奇異の思ひを。是正しく觀音菩薩垂我後の祈願を納受在
 一子と授けし事と最頼母の思ひ夫婦佛前小額著て佛恩を拜謝
 一々下向する小果と程なく妻女妊娠十月満て平小玉の如き男子
 出生し大娘夫婦大に悦び掌中の玉と鍾愛荒れ風中せと慈
 云々々小嬰児の頃より普通の小兒より大體小く常の兒の如く啼哭
 敢て物孩せと無病小生六七才の頃より千跡を習ひ儒書を
 讀み記憶よく一度讀みて忘るる事なく機衆重小勝り且又力甚く強
 く七八才の頃より血氣の若者と稱しぬる大石を小腕小く持運小東
 重げたる色も見えぬ緒人驚嘆奇重なりと稱しぬる父大娘も奇
 なりと感むる度度有る由一突も觀音の授けし子にれは尋常の小

兒とい異なりなりと思ひいやく童愛一切小く育つる。然小一時大養の終
 與福寺の僧末りて田村丸の人相骨法を足甚く奇く大養小語て曰
 賢息の人相を看み小大好相あり後年必む天下小名を真くすと名持と成
 るふなりと賞美しけれ。大養深く悦び謝しと曰渠ハ初瀬の觀音小祈願
 をとめ授けし事告見し其時の夢小金の甲冑と著戦を持する神人愚妻の
 口中飛入りて見て程なく妊娠し出生せしなりと語りたる小僧は感嘆し
 されむこと普通の小兒と異ふ見えも理りなり其神人を多門天より即ち觀
 音三十三身の中より神將なりとて田村丸と礼拜し歸られける。是より推し
 かく田村丸を毘沙門天の再誕なりと言觸りたり。斯く田村丸成長しと年十八
 小及び身杖六尺三寸胸板の厚一尺寸鼻隆準と眼光星の如く。声鐘の如く
 十里小御音れ聲力底をきき馬市物の技はりも更なり。兵書小通陣

法不精く。殊不測ある。身を重くせん。欲する時。二百斤二百斤。目余り。狂くせん。欲する時。六十斤。目余り。足も。狂重意の欲する。目余り。眼も。瞽。氣を屬して。向。時。猛獸も。怖。伏。色。と。和。げ。咲。結。る。時。小。思。も。孤。親。も。ぬ。滅。小。古。今。掃。たる。英雄。あれ。朝廷。の。御。覺。も。他。小。異。小。常。小。内。裡。百。れ。衛。護。せ。せ。ひ。け。り。田。村。丸。智。勇。衆。小。秀。方。なる。の。あ。ふ。ぶ。佛。法。を。信。仰。し。殊。更。觀。音。を。深。く。尊。信。せ。れ。る。小。一。年。都。の。東。山。小。遊。獵。し。身。躰。稍。疲。ま。ま。山。中。小。一。軒。乃。丹。菴。あ。り。々。更。入。て。憩。れ。々。々。菴。手。と。覺。し。一。人。の。老。僧。經。文。を。讀。誦。して。居。々。々。田。村。丸。の。入。腰。赤。く。け。ら。々。と。見。て。經。卷。と。ま。置。湯。を。汲。菓。と。出。し。懇。不。管。侍。々。田。村。丸。其。志。心。と。感。謝。し。て。そ。の。御。僧。は。う。る。人。跡。絶。々。山。中。小。只。一。人。行。ひ。ま。ま。り。の。入。更。い。く。も。殊。勝。の。更。々。何。國。の。人。あ。く。在。ま。々。と。回。ま。々。れ。を。老。僧。是。ぞ。拙。僧。ハ。河。内。國。の。産。り。て。法。名。を。延。鎮。と。号。し。い。か。先。年。不。思。議。の。重。垂。夢。を。感。ず。

淀川を流りて行ひい一流の技河あり。是ぞ望見い小水上小金色の光。聚。然。た。ま。を。異。く。ゆ。ひ。光。を。同。當。と。て。流。小。添。遠。く。山。路。を。公。登。り。終。小。當。山。の。滝。水。の。下。未。り。い。小。側。小。草。と。結。々。菴。有。て。一。人。の。老。翁。身。小。白。衣。を。著。し。端。座。せ。り。其。体。頗。る。凡。庸。か。ず。ん。え。い。ひ。も。拙。僧。其。姓。名。を。尋。問。い。い。小。翁。答。て。我。を。行。睿。居士。と。い。者。かり。往。年。より。此。山。間。小。隱。栖。し。て。年。久。く。常。小。千。千。千。眼。の。神。咒。を。称。る。の。ま。ま。の。世。上。の。變。易。と。ま。々。と。我。小。一。個。の。願。望。有。て。你。を。待。更。ま。年。あ。り。今。奇。縁。熟。し。と。相。會。更。々。得。恰。悦。小。堪。也。我。者。願。と。縋。を。別。の。義。あ。る。也。當。山。と。觀。音。の。道。場。と。か。る。る。無。比。の。靈。地。かり。又。彼。處。小。生。一。老。樹。ハ。無。双。乃。靈。木。け。い。彼。木。を。以。て。觀。音。の。像。を。彫。ま。々。と。思。り。然。る。小。我。さ。る。子。細。有。て。東。國。下。ら。て。不。叶。要。勢。あ。る。依。て。你。我。小。代。々。此。菴。室。小。任。觀。音。の。道。場。と。閑。く。登。り。准。備。せ。よ。我。も。程。か。く。歸。る。を。し。ま。れ。も。若。我。歸。る。更。遅。く。も。你。先。更。と。成。

始よと言終り公羽別を告て東方へ行去ひた其より拙僧此菴に住し春秋と
送る更二年ふ及も彼行睿居士敢て歸きまむといふ余亦待りし所と尋
廻りひふ山科の東牛尾山く巖の上老公羽の履一背右と認め茲に於拙
僧はく考へ彼行睿居士と名告し翁ハ觀音菩薩垂の化身小く我亦此
土地不道場然用をまゐるる方便なりと始て悟り此菴室へ歸り教小
任せ佛像と刻し寺院を建せんと欲せしむる人自如く羊歴る老樹拙
僧が自力不及處もわがを地形もま樹木陰林と山石屹々々奈何
ともする更能く只期のゆるが待んり外小絶とる方便もた一向小
觀音經と千手陀羅尼を誦し且送りひひふ前夜大い風吹強雨降
山鳴溪應震動も更終夜不止曉方漸く風止雨収り物音靜りの
也今朝起出て見いへ樹木悉く抜作は山石裂確々土地平面なり

堂塔を建る便り成得て是佛堂を造立すとた時節未り觀音の妙智
力成ひく樹を抜岩を頽しめいめと思ひ山中と見巡りひ小出殿乃薩
小巨なる鹿二頭斃死といひた是前夜觀世音の命と承て樹を抜岩を
頽して勞れ斃ひいめと思ひ彼所埋し印小石を建今有鹿四道いと
いと長くと物結れを田村丸始終をせ深く感れ我も多年觀世音を
信仰し土地を擇し一字の觀音堂を建せんとおの更久しれどもいま其
宿願を遂むる由今不斗狩小出く此山中入脚僧小面會と右の物結
をば更偏小觀世音の導た遇しめるとも成登り我脚僧小力を添俱小
觀音堂を建立とを登り我邸宅せむ工匠人夫を招れ集め明日當山へ越
人間脚僧指揮して其靈木を伐せ先觀世音の靈像を彫りてとせられ小
そ延鎮大い歡喜し如斯あれを拙僧が年来の願望成就せん更何の疑う

あんとて拜謝し、これを田村九堅く契約し、私宅へ歸り、其翌日、多の工
匠人夫并、小羅金銀、亦と音羽山の延鎮、小送り、多ふす。延鎮、恰び小堪
む。彼老樹を伐せ、其材を以て、御長八千、千眼の觀音の靈像と彫
刻、ふど、うり、多る。然、小田村九、今度、東夷征伐の副將軍の任、を蒙り、大、小悦
是、先祖の名、を引、真一子孫、繁昌の基、を固く、端、かり。然、佛、善、善、薩、の加、護、と
祈、む、ん、を、全、れ、勲、功、を、多、く、思、ひ、音、羽、山、か、る、延、鎮、の、菴、へ、結、多、る、小、早
千、千、觀、音、の、像、大、半、成、就、し、た、ん、む。田、村、九、大、の、怡、び、延、鎮、小、向、ひ、我、今、般、勅、命、小
依、て、東、夷、征、伐、の、副、將、軍、の、任、を、賜、ら、り、師、我、が、為、小、觀、世、音、小、祈、誓、言、と、
味、方、の、利、運、を、祈、り、我、も、自、願、ん、と、過、半、彫、る、佛、像、小、向、ひ、礼、拜、し、願、
大、慈、大、悲、觀、世、音、善、善、薩、大、威、神、力、を、加、て、東、夷、と、安、く、夷、め、り、凱、陣、の、後、ハ
堂、塔、を、建、立、し、永、く、此、地、小、鎮、座、か、ま、ん、と、丹、絨、を、凝、と、祈、念、し、延、鎮、小

別をきて、歸り、出陣の用意、整、(諸、大、將、と、も、小、東、國、へ、下、ら、れ、る、)

官軍と夷賊、于、奥、州、會、戦、 田村九武、勇、討、大、熊、九、條

去、程、小、征、東、大、使、大、伴、弟、大、呂、副、將、軍、百、濟、王、俊、哲、藤、原、真、就、鳥、坂、上、田、村、
大、呂、亦、奥、州、を、望、ん、ぐ、下、向、せ、れ、る、小、東、海、東、山、兩、道、の、軍、勢、追、く、小、地、加、り、
陸、奥、國、府、着、到、せ、り、頃、ハ、三、万、余、騎、小、及、れ、り、諸、大、將、大、小、男、要、害、の、
地、小、數、個、所、の、陣、營、を、構、へ、逆、茂、木、と、植、兵、糧、を、運、せ、今、度、こ、と、夷、賊、乃、根、
を、斬、棄、と、拵、ん、と、り、小、軍、議、と、か、り、攻、伐、の、准、備、と、急、が、れ、る、時、小、夷、賊、の、首、
領、大、熊、九、八、去、年、の、軍、小、亦、勝、て、り、官、軍、恐、る、小、不、足、と、慢、り、狂、ん、ど、已、か、し、時、の、
虎、威、と、特、て、州、郡、を、掠、り、掠、奪、を、恣、中、淫、酒、小、長、と、傍、若、無、人、小、奉、止、
々、小、又、蝦、夷、の、嶋、夷、の、巨、魁、小、高、大、呂、惡、路、王、と、り、曲、者、二、人、あ、り、幕、下、小、屬、
と、る、夷、賊、二、万、余、人、を、徒、(是、も、奥、州、) 亂、入、と、郡、縣、を、劫、り、掠、り、大、熊、九、と、一、千

小あり。いよく逆威を逞き。其勢九万騎中余り。おも悪路王六霧を降し
 雲を起し怪れ邪術をまへ行ひしを。たゞ京勢百万騎あつとも。只一戦小蹴
 散さん。更へと易と侮り。博望。己が柵を出る。官軍の陣營。向ひ廣野。數
 箇所の屯と。構多。官軍の大將。大伴。弟。官是を足す。思れ夷賊の奉止。み
 味方の猛勢を足す。旗を伏置。且脱。降兵。さる。さる。遠く。逃退。つた。高
 も。来つ。虎の鬚。引んと。と。奇怪。あれ。早く。馳向。一戦。小伐。散せ。と。つた
 ち。と。田村。九。練。て。同。軍。法。中。の。敵。と。慢。り。と。増。て。賊。兵。の。勢
 小。あ。つ。と。然。り。地。の。理。小。委。れ。を。怪。れ。ど。味。方。の。敵。軍。より。多。勢。あ。れ。も。や
 さ。を。諸。國。の。寄。合。勢。と。い。ひ。地。の。理。を。委。れ。知。れ。を。怪。れ。と。軍。と。仕。け。を。恐。れ
 く。ハ。却。て。敗。軍。一。銚。先。の。疾。を。付。ふ。到。り。い。ぢ。只。陣。營。と。固。く。守。り。能。く。敵。の
 虚。實。を。探。り。謀。と。定。て。後。彼。を。伐。ん。と。上。策。お。て。い。つ。と。制。せ。れ。た。れ。は。第。一

呂嘲。い。貴。殿。ハ。名。小。々。え。る。武。勇。の。人。と。思。ひ。小。案。の。外。臆。病。柔。弱。あ。る
 更。と。ト。さ。る。軍。法。小。先。ん。む。る。時。ハ。人。を。制。し。先。ん。せ。る。時。ハ。人。小。制。せ。る
 る。と。習。む。去。年。墨。繩。古。佐。美。が。革。貴。殿。の。如。く。敵。を。恐。れ。長。評。儀。小
 日。送。り。て。一。度。も。勝。利。な。り。大。小。兵。を。折。れ。見。苦。く。都。逃。上。り。て。官。軍。の。威。と
 損。し。其。身。ハ。君。の。脚。不。真。を。逃。家。ま。り。是。臆。病。未。煉。より。更。世。殺。ま。る。な。り。予
 苟。も。帝。の。脚。擇。小。あ。つ。る。征。東。大。使。任。せ。れ。て。下。向。せ。上。ハ。行。時。も。猶。豫。す。べ
 れ。小。あ。つ。と。王。威。を。首。小。頂。た。る。賊。徒。を。一。戦。小。伐。夷。け。君。の。宸。襟。を。止。女。人。を
 つ。ん。更。方。す。の。内。小。あり。貴。殿。ハ。後。陣。小。在。て。予。が。武。略。の。才。見。物。せ。る。を
 一。と。飽。す。と。大。言。し。た。れ。田。村。丸。其。練。を。知。て。再。び。言。ふ。と。思。て。退。れ。る。弟
 六。呂。百。濟。王。俊。哲。小。八。千。余。騎。を。授。け。て。先。陣。小。進。せ。藤。原。真。就。鳥。小。八。千。余。騎。を
 授。け。て。二。陣。と。其。身。ハ。二。万。五。千。余。騎。を。領。し。て。三。陣。と。なり。田。村。丸。小。鼻。明。せん。と



田村丸の如く
 賊將大熊丸
 討つ



血氣不任せ前後の思慮もたつ。延暦十二年八月七日の未明より三軍の兵狼と
 つらせ金鼓を鳴し螺を吹て押出し、久田村九公弟六名敵を慢り必定敗軍
 をなすと思ひ、味方の戦ひ難義あ及む是れ救んと。二万余騎より後陣
 小備へ合戦の中へを見物せしむる。去程小官軍の先陣百濟王俊哲、今
 余騎を魚鱗小隊貝鉦を鳴し喊を發て。賊將大熊九千餘騎、押寄る賊
 方も兼て官軍の押寄を知れ、大熊九千餘騎、押出し、西勢暫く矢
 合へ、傾く技連々相がらふ掛つて、戦ひ、此時官軍の三陣、藤原真就、鳥ハ
 八千餘騎を九隊と。路を横切り、賊將高九が七千餘騎、おとせ、陣、叫
 び、高九も勢、出でて迎へ、戦ひ、西所の敵、味方の喚叫声、絶ち、馬
 啼の音、四、真小、響き、凄しく、烟塵天を曇り、さる小賊軍、官軍の鋒先
 小當り、し、又と思、音有る、漸く、引退く、官軍得たりと、勢、ひ、猛く

伐や進めと呼く、勇まき追進む、賊兵ハ倍色め、立て崩れ退か、三陣の
 大伴弟、名大、小、勇、も、浪波軍、ハ、勝、も、ぞ、此、隊、も、進、ひ、味、方、小、力、と、併、敵、を
 塵、お、せ、と、下、知、れ、ど、二、万、五、千、騎、の、新、兵、の、京、勢、大、浪、の、如、く、喊、を、發、て、馳、行、
 々、る、小、勿、心、ち、森、の、裡、より、一、發、の、狼、煙、を、揚、る、と、比、し、此、所、彼、所、の、森、林、數、法、よ、を
 賊、方、の、伏、兵、起、り、五、九、一、万、四、五、千、騎、弟、名、が、勢、と、前、後、左、右、より、取、圍、く、矢、を、射、
 け、喊、を、發、て、採、ま、る、京、軍、是、小、一、警、と、喚、び、か、が、大、軍、と、し、新、兵、あ、れ、も、勢、と
 分、り、相、當、り、火、水、小、威、て、挑、戦、ひ、つ、る、此、時、追、兵、逃、足、た、る、大、熊、九、高、九、が、勢、を、
 足、並、を、整、へ、盛、返、と、て、攻、進、く、曳、く、声、と、あ、ま、る、小、ぞ、京、軍、案、小、相、違、し、か、が、
 三、將、三、方、小、分、れ、下、知、を、ち、爰、と、大、東、と、横、戦、と、る、と、ろ、小、俄、然、と、て、惡、風、吹、起、
 り、て、土、砂、を、吹、ま、る、や、不、可、や、勝、臆、と、霧、降、出、る、多、く、四、方、冥、く、と、て、咫尺、の間、も
 見え、な、く、な、り、た、れ、京、軍、大、弟、我、れ、敵、味、方、と、弁、する、ま、と、得、む、周、障、強、き

向者と素是西路王が邪術を以て降せし霧あは。賊兵と霧のふれ小服乃
りとも更あなれを狼狽強ぐ京軍と擇り討つる小と。官軍千員陣波敷
をまゝと。只路を求めて逃んずるも。霧と土煙小眼眩にて東西南北を合
さめが。盲人の杖を失ひ、如くわたり。時小坂上田村丸ハ後陣小備て先隊の合
戦の体を見物と居れり。敵軍偽り敗る退を味方是を賊小敗と逃
ると心得ず。追行を見是必と敵の謀計小中る。思ひ果と敵の伏
兵起り。如くあゝと俄小雲霧の起り。れを田村丸馬の鞍を叩え。諸を賊討り
中。小幻術を行く者有と覚る。昔蜀の孔明南蛮の孟獲を征伐し時。敵幻術
が。以て雲中より魔軍と降し。蜀兵を悩せし。孔明其邪術なるを知歎類の
生血をうて。大軍小洒ぎけり。む。幻術破る。軍馬と人々。八臺木偶たりと
名。今も其理あり。馬の血と。器入る。大術を初り。用意せよと下知せし。

れを馬廻の士令小従ひ馬を刺し其血を妻の器小受。満是を携ふる。斯准備細
ひくれ。田村丸態と五百余騎の小勢と引来し。疾風のて。戰場へ強り。用意の
馬血を。市中。時散させ。う。小案の如く。悪路王の幻術破る。風止。雨露香て。日
の白日と成る。小。官軍夜の明る心地。大。小。怡び。又隊を整へ。敵小相當り
々。田村丸ハ馬跳し。と會釈も。村雲。と。敵中。割り。入。長。五尺。三寸。竹
目六十斤。小。余る。大。太刀。と。電光の激る。如く。閃く。勝。矯る。賊兵を馬武者
歩率の。小。ち。當を幸と。斬て。落を。此。太刀。下。小。臨む者。八。曹。も。甲。も。溜。ら。い
る。と。一。太刀。小。二。入。切。て。落。され。一。瞬。中。小。三。五。六。入。命。と。損。手。肩。の。者。八。數。あ。ら
と。夷。賊。此。饒。勇。小。戦。慄。は。是。は。も。鬼。小。神。人。同。業。小。ハ。も。あ。り。と。睦。と
消。我。先。と。味。方。と。押。し。八。丈。間。れ。靡。い。敗。走。を。田。村。丸。ハ。倍。勇。力。加。り。敵。中
を。縦。横。と。る。更。人。が。れ。街。を。往。か。如。く。弥。勇。と。奮。ひ。敵。を。討。更。艸。を。并。雉。が。如。く。強

將の下しやうのした弱率じやくそつ無なむむのの從しゆ五百いつぱく騎きのの兵士へいしもも主將しゆしやうのの勇銳ゆうがい小せう劔けんまさまされれ素す素すリリ斬ちん
 兵へいのの更さら多おほれれをを太たい刀とう鋒ほう尖せんくく敵てきをを切きちち外がひのの勇ゆう戦せん一いつ多おほくくもも勇ゆう勢せいのの賊てき
 軍ぐんもも田でん村むら丸まるがが一いつ隊たいのの小せう勢せい小せう捲くわりりききれれ足あし並なら支し度ど路ろ小せう乱らんききまますす。是こゝ小せうよよくく
 始はじめちち敗はた色しきととええせせるる俊しゆん哲てつ。真ま就しゆ鳥とり。第だい一いつ名ながが勢せいもも色しきとと整ととの一いつ銳がい氣きとと復たがひくく
 敵てきをを追お追おままるる小せうどど。賊てき軍ぐんいいちちちちけけ及およびびててええんん小せう多おほくく。賊てき將しやう大だい熊くま丸まる小せう鹿か角かくをを引ひ
 裂さ怪かい力りき強かう勢せいのの曲まが者ものああれれ。田でん村むら丸まるのの小せう切き靡ひけけられられとと憤いらいりり。悪あく死し京きやう將しやうのの腕うでをを
 ううああいいてて我われ討うち道みちてて味あじ方かたのの弱じやく率そつ們らのの眠ねをを覚させせんんとと馬うま上のう小せう甲かととゆゆりり整ととの一いつ丈ぢやう余よ
 のの大だい鐵てつをを淮わいくくとと揮ひ。田でん村むら丸まるをを目めざざてて送おく寄よせせれれ。田でん村むら丸まる完かん示しとと先せん刺しよよ
 手て小せう三さん敵てきななくくてて腕うでをを思おもひひ小せう望ぼうむむととららのの敵てきももほほくく馬うまとと送おくよよせてて已やぶぶ
 西さい馬ま行かう合ごう程てい小せう大だい熊くま丸まる一いつ言ごんのの言ごん圖ともも及およびび大だい鐵てつをを揚あげげてて擊うち手てててるる。田でん村むら丸まるもも大だい
 太たい刀とうとと抹ま一いつ往かう一いつ来らいとと戦せん一いつ更さら十じゆ余よ合ごわわ及およびび大だい熊くま丸まるがが般ばん石せきもも確かくととおお下くだすす鐵てつとと

田でん村むら丸まる早はやくく身みととるるてて是こゝをを避よくくとといいくく。鐵てつのの柄へいをを左ひだり手て小せう摑つかででははくく曳ひ寄よるる
 小せう金こん剛かう力りき小せう曳ひままくく大だい熊くま丸まる覺かくむむとと馬うまももととららもも小せう曳ひ寄よらられれるる。田でん村むら丸まる手て討うち
 小せう喘ぜんとと斬ちん何なにううららてて堪たんんななららずずもも兇けん勇ゆうのの大だい熊くま丸まるもも甲かがが肩かた夫つまよりより切き下くだられられ
 苦くるもも言いははすすとと二ふた段だん不ふ成じやうてて死しててんんがが。賊てき率そつ們ら頼たのむむ切きりり巨きよ魁けいをを討うちしし其その猛もう勇ゆう
 小せう辟へい易いとと。賊てきのの子ことと散ちららせせるる。八はち方ほう敗さい走そうとと高かう丸まる惡あく路ろ王わうもも幻まじな術じゆつハハ破やぶられられはは
 勇ゆう勢せいのの官くわん軍ぐん小せう採さい多おほくく戦せんひひ己おのれ小せう難なん義ぎ不ふ及およびび上かみ大だい熊くま丸まるとと討うちまますすととまますす力りき
 をを落おちちしし今いま是こゝををかかぐぐとと馬うま引ひ返かへりりとと逃のがれれまますす。増ますす賊てき兵へいもも隊たいとと乱らんとと敵てき走そう
 々々。官くわん軍ぐん勝かう小せう乘かうくく追お討うちしし思おもひひ小せう敵てきをを討うちちち取とりり高かう名なとと顯あららわわるる。田でん村むら丸まる
 丸まる味あじ方かた以もつ制せい。不ふ知ち案あん内ないのの敵てき地ちをを長ちやう追おひひ無む用ようななとと退ひき釘かぎをを鳴なりりとと班はん
 々々。小せう弟てい一いつ名な以下いげのの三さん將しやうもも手て勢せいとと集あららわわるる。惣そう軍ぐん一いつ小せう勝かう喊かんをを發はりり一いつ勢せいとと隊たい
 をを立たてて凱がい陣ちんししるる。城ま由ゆ田でん村むら丸まるのの援えん兵へい無む人にんをを大だい敗さい軍ぐん不ふ及およびび危あやむむ。小せう思おもひひのの外がひ向むかひひ

勝利を得、全く田村丸の助力をよるところなりと、弟六名始の過言を悔く其
 勞を謝し、陣營小飯りて軍勢を以て点檢せしむ。三將の麾下小戦死の者三千
 余人、手負千二百余人、敵の首を得、更千三百余級とを記し、田村丸は五百余
 人の勢、二人も死亡の者なく、手負も五十余人、敵首を得、更七百餘級生捕の
 者二百余人、及多し、時小弟三名、俊哲、真鶴、鳥の三將、田村丸の高名を賞して、後
 再び賊徒征討の軍議を、小田村丸が白賊軍の進退法度なく陣立とも
 嚴重め、されば、亦破人、更難く、されども、夷賊の中、幻術を以て、霧を降る者有
 し、且將軍ホ案外の敗をとらむ。夷狄の國ハ古より怪術を行ふ者有
 と、及及びい、然とも争う久く、王威ハ敵を更と得ん、其皇天の佐を得ず
 僥倖、小勝利を得、入の賊首と討取れ、残る夷賊を、誅伐せん、更難くとも、敵
 小臆病風のよめ、ねらう、機を弛む、征伐ハい、なりと、やされ、れむ、三將、然、而、と

同意し、羽日作侯と出、敵の動靜を窺ひ、むる、小賊將高丸、悪路王、昨日の軍
 小多、く、士、率と折れ、残黨を、驅集、神樂岡の、東、大川、小、大、船と、浮、登、て、乗
 夷賊を、招、れ、聚、て、後、再び、一、戦、ふ、及、ん、と、專、ら、士、率と、驅、募、る、り、回、り、報、じ、る、め、へ
 さ、し、む、敵、小、勢、の、付、き、る、内、小、伐、平、ん、と、弟、六、名、ハ、昨、日、の、合、戦、小、金、齋、と、受、て、進、退
 意、小、任、せ、ざ、れ、む、出、陣、を、止、す、り、田、村、丸、及、小、征、東、使、と、なり、真、鶴、鳥、俊、哲、と、と、り
 二、万、五、千、余、騎、を、引、率、と、神、樂、岡、へ、出、張、り、る、去、程、小、夷、賊、ハ、初、度、の、軍、小、京
 軍、と、多、く、討、取、れ、る、も、又、田、村、丸、の、為、小、多、く、手、勢、と、折、れ、離、散、せ、者、も、多、く
 剩、ハ、大、熊、丸、と、討、取、れ、る、を、上、下、皆、田、村、丸、の、武、勇、と、恐、む、る、小、京、軍、多、勢、小、々、
 攻、来、る、り、追、く、や、え、れ、む、船、中、の、賊、兵、大、小、戰、慄、た、恐、怖、の、色、を、表、し、る、も、高
 丸、悪、路、王、是、を、制、し、田、村、丸、一、人、勇、り、る、も、何、と、怖、る、小、足、登、れ、我、妙、術、を、施、し、て
 敵、と、拉、ん、更、方、す、の、内、小、あり、敵、小、神、樂、岡、を、起、さ、せ、て、ハ、悪、多、る、人、早、く、味、方、神

神岡(弛登り切所)小支て敵を眼下直下(大木大石を投落)又々下(平)小
 矢を射るあらむ敵大軍多るとも漂ひ乱る(其弊)小兼(て)伐て下り追散ん
 小勝(む)と(り)更(あ)有(る)が(す)と(て)船(中)小(大)墓(王)盤(具)王(あ)ど(い)宗(徒)の(夷)賊(小)二(千)
 余(騎)と(授)て(田)守(と)獲(せ)高(丸)悪(路)王(六)千(騎)を(率)して(神)樂(岡)出(張)高(丸)
 八(千)騎(小)村(小)屯(一)惡(路)王(五)千(騎)小(山)上(と)り(登)りて(陣)と(構)木(石)積
 貯(矢)束(解)て(待)け(り)斯(く)官(軍)二(万)五(千)騎(を)三(隊)小(分)先(陣)八(百)洛(王)俊
 松(二)陣(八)藤(原)真(就)鳥(三)陣(八)坂(上)田(村)九(一)勢(く)旗(旗)を(翻)隊(と)整(て)神(樂)
 岡(へ)押(到)りて(臨)る(小)賊(徒)山(上)小(屯)と(多)く(旗)旗(を)風(吹)麻(非)戰(ひ)を(待)体
 かり(神)樂(岡)と(い)む(ま)の(高)山(小)も(あ)ら(る)危(し)と思(ひ)の(外)峰(高)く(攻)急(峻)小
 一(と)容(易)登(り)が(ら)小(賊)軍(山)上(小)充(満)れ(む)狂(忽)攻(登)入(中)も(り)く(俊)哲(真)
 純(鳥)田(村)九(小)面(會)と(軍)議(を)る(小)田(村)九(白)味(方)ハ(地)理(を)知(れ)む(先)山(上)の(地)

勢(と)探(り)上(り)小(軍)略(を)定(む)り(と)兵(士)の(中)の(風)人(を)招(寄)山(上)の(地)理(を)回
 り(る)小(其)者(白)此(岡)ま(の)大(山)と(や)り(お)も(い)ひ(ま)る(此)方(より)登(り)し(る)路
 狭(く)峻(く)と(も)槍(多)く(生)茂(り)し(る)容(易)小(攻)登(り)が(ら)小(敵)を(鉤)
 下(り)て(伐)り(と)を(並)る(危)し(い)り(と)と(や)り(多)く(田)村(九)守(て)你(が)り(所)理(り)れ(む)敵(ハ)
 險(阻)を(特)と(て)屯(を)し(を)鉤(下)と(も)も(下)る(す)り(と)絶(え)た(手)段(を)有
 と(て)急(小)攻(登)入(し)と(も)せ(ど)野(陣)を(張)て(守)禦(の)備(を)た(し)諸(士)率(を)多(く)出
 て(芦)萱(を)數(ま)サ(り)七(手)頂(小)束(ま)せ(積)貯(安)岡(と)て(日)と(送)り(ま)る(俊)
 哲(真)純(鳥)其(意)を(志)す(已)十(日)む(ら)の(日)成(歴)る(堪)ふ(て)田(村)九(小)向(ひ)も
 何(ま)の(日)賊(軍)と(攻)伐(を)命(死)や(し)催(促)し(る)小(田)村(九)赤(く)近(日)山(上)へ(攻)登
 り(命)今(折)皆(く)待(め)と(て)猶(徒)小(寺)過(す)三(日)と(送)り(ま)る(小)九(月)十(九)日(の)午)過(る)頃
 より(西)風(吹)出(り)日(の)暮(る)小(徒)小(漸)小(強)く(吹)々(る)小(田)村(九)士(率)小(命)と(て)積(貯)

枯州小悉く火薬と酒をせ。你们此枯州を二ふ四五把づ携て神樂岡夕闇の内小暗小潜登り如此くとう入ると謀と言合て凡二百人むう山に登を借真鷲。俊哲と招れ今夜敵の山陣へ夜討をうむれたり。各位出陣の準備し更とトされを兩将中ふ八不知案内の敵地とらひ殊更險阻の山坂を夜中か攻登人吏如何ちんと危をあら。及び征東大使の下知あれを領掌して士卒小兵糧をつる各初更過る頃出陣の準備全く調ひたる也。田村九ノ斯と達も是よりて田村九隊賦し。自身先陣とたつ二陣ハ俊哲三陣ハ直就鷲と定め。夜討のあひぬれを袖符が付相約を定め。隊々押出し。人々枚を合と馬小響と縛り潜くと坂道と押登りたり。是より前田村九が山路へせせ士卒八山中の樹林の中潜り入彼枯草と此所彼所小積おれ相圖をたつ二百余人日小焼州火をきりぬれ。勿坐う煽くと燈支折しも秋の末おく黄枯る樹木

多く。ちりも檜山がれ火の燈移る吏早く荒吹西風小吹まられ。暫時が程小平山の樹木突くと燈をい。二百人の士卒ハ平場小寄集り一各小喊を噴と共發。此時田村九が勢ハ坂を半よりる也。山上の火光と鯨波を相圖とらひ大い喊と共發り勇も進んで攻登りれ。二陣三陣も是も機を得先陣小引續て攻登りたり。賊方の陣ハ京軍久く攻上るも油断を生。今夜押寄る。と思もぬ所小俄小山中の樹木燈を間近く喊の聲の震ひ起り。仰天ノ浪波や敵軍寄たるどらよ太刀よと牛特れて強動鼎の粟の沸がて。加多お。檜の燈支吏あれを梢より梢小火傳ひ火の屑の落る吏火雨の降が如くあれ。周障狼狽と維り敵と支んとする者なく我先と東の坂と敗走。官軍ハ火光とカ小追く山上攻上り周障迷ふ賊軍と追うけ追詰討程小夷賊討く者數知ど或と逃んると谷へ落重りて死する者も多かり。大将悪路王も心致れぬ

味方と制して敵を防ぐと声を涸して下知されども崩れ去る勢のありし耳小
突入る者もなく林の高丸の陣をきりて敗下りくる也悪路王も力なくとも小敗往
味方小誘れは高丸が陣を落行々高丸の陣小山上の大光と鯨波小鷲
丸是ハ何妻の起しやとて追く作候と出さるち早山上より逃下り賊兵高丸の
陣へあぐれくるも林の賊軍も周障強だ京軍の夜討小寄し心得は士
討して同著し田村丸六諸軍と励此勢ハを弛を林の敵を伐散せよ
下知せしむるも勝誘る官軍破竹の勢ハをかり十九夜の月ハ牙より喚
叫んで太山の萌る如く坂を落し高丸が陣を伐てくるさあれ小強乱し賊
兵此強勢小恐怖し合れ支(む)川辺の方敗走さるる悪路王も心強て
幻術を行ふ違もなく馬を拍て敗落高丸官軍小取囲られ小討さる
小部下の士平大勢引返しとく血路を切開れて救ひ出さる小依万死を

免き是も味方の船陣きて敗走り至領の二人と如斯あれも其餘の敗
率們も八方へ散乱し己がまぐ落行を官軍是を追討し或生捕各々
分外の高名と顕しる田村丸六地理を不知敵地を長追せむ過ちあへん
と退鉦を鳴して勢を班り大糸凱歌を發て軍威を示し其夜ハ山下小
陣をとり軍馬の疲労を休め討取し首と点檢せむるも首八百五余級
生捕二百七十余人と記し去程小賊至高丸悪路王六神樂岡の一戦小
大糸兵を折れ今ハ勢ハ極り官軍小拒敵せん更も叶ふれ高丸大糸カと
屈し悪路王大墓盤具們と議し多ハ敵將田村丸勇ありて且能兵隊用の
奇針を以て大糸味方の兵士と折りしれ一旦敵の銳氣を避く蝦夷地退
れ嶋人を逼聚め京軍都(凱陣)後再び此國(乱入)て一雁を伐取んと
如何と言々る小悪路王首を揮る勝敗ハ兵家の常なり一兩度の敗軍小

氣を屈するハ大丈夫の所業ハあり。今味方三千の軍兵あり。皆此船陣と守
り。鋭氣と艱々内ハ散乱せず。兵卒も追ハ弛帰る。其間ハ京軍長陣
ハ退屈。勇氣の拔るハ待。一戦を催。我々妙術を施して敵を拉。わ
む田村丸を虜ハせん。更難。うむと。大墓王盤具王ホも。も。小練
々。是ハ依。て高丸も。其。引。後。退。去。止。し。船陣を守。離散せ
士卒と招。れ。集。め。る。ハ。神樂岡の敗軍ハ逃散。夷賊追。く。小。飯。聚。り。又。四
千余騎。ハ。成。り。多。田村丸。俊。哲。真。就。馬。の。三。將。ハ。賊。軍。ハ。勢。ハ。内
ハ。伐。平。平。と。川。辺。ま。ぐ。押。出。て。屯。張。川。面。を。ん。せ。む。川。の。廣。ハ。更。二。里
ハ。余。リ。水。勢。ハ。石。を。流。を。絆。疾。く。川。の。上。下。ハ。小。船。一。艘。も。な。く。賊。徒。ハ。大。船
ハ。九。艘。ハ。乗。て。東。岸。ハ。屯。し。た。田村丸。水。練。の。者。ハ。命。ど。川。の。瀬。お。せ
む。ハ。深。ハ。更。底。を。あ。く。も。水。勢。ハ。矢。を。射。る。如。く。あ。れ。ハ。船。筏。ハ。渡。る

櫓權水掉の三人。すも。な。い。と。急。ハ。征。伐。せん。も。ハ。軍。儀。區。ハ。一
て。日。送。る。も。ち。弟。石。も。金。澹。平。念。一。来。り。加。り。て。敵。と。征。伐。の。高。儀。を。は
々。と。も。ハ。賊。軍。ハ。軍。勢。ハ。増。く。五。千。余。騎。ハ。た。り。れ。む。を。敵。を。當。て
先。敗。の。耻。辱。と。雪。ん。と。十。月。十。日。ハ。五。六。艘。の。艦。艘。を。乗。出。官。軍。の。陣。ハ。向。ハ
々。官。軍。の。緒。大。將。是。を。ん。船。と。陸。の。合。戦。ハ。利。あり。敵。と。陸。ハ。鉤。上。て。伐
ん。と。二。里。斗。退。て。屯。し。た。案。ハ。賊。兵。四。千。五。百。余。騎。陸。ハ。け。り。と。隊。を
々。喊。を。張。り。鉦。鼓。を。鳴。り。て。官。軍。の。陣。ハ。向。ハ。矢。を。射。り。て。攻。進。む。官。軍
ハ。待。殺。さ。る。更。あ。れ。ハ。呼。く。喊。を。合。し。矢。を。射。く。逸。旗。の。着。者。ハ。ハ。早。抜
つ。れ。ハ。ち。て。う。ハ。敵。味。方。と。合。て。追。つ。返。ら。大。花。を。散。り。て。戦。ハ。多。悪。路
王。と。戦。ハ。の。夜。合。を。令。馬。上。ハ。咒。文。を。唱。幻。術。を。行。か。し。今。中。で。暗
天。俄。ハ。う。れ。曇。り。真。と。暗。かり。悪。風。吹。起。り。土。砂。を。捲。上。且。朦。と。霧

降起て物の黑白も見え分るる成れぬ。官軍大少残れ須波より例の幻術を
 發だ惑ひ隊と乱と強き賊兵得たりと救軍一度おち進み無二無三お切捲
 るふと官軍倍周陣して討つ者數をあらと。田村九兼てうる更も有んと
 歎類の血を多くとて用意せぬ。此時士平小命と空中一時散させくふ
 例の如く風止霧霽るれも賊軍八倍勢ひ猛くおちまもおと。朋とる京軍
 足並を立整へし支度路お成て見えく。何回より来しもあつと。人乃沙
 門と烏帽子淨衣を著るる社人忽と頭を出追来る賊軍お向ひ袖を
 てお拂ひぬれ忽ち大風吹出。賊軍と吹倒さる。將基の物を倒さか。如し
 小依て田村九真話鳥俊哲弟名銘味方と。須波賊後ハ引色お成る
 を返せくと下知たを。此號令小機を整へ。官軍二口お盛返して切進め。又
 賊兵捲りおれて足場と敗退さる。悪路王大少怒り再び咒文と唱へ。邪

術を行ひぬれも何たるも平敢て悪風起ると霧降る。心中筋りおが
 射人小命と京軍お向ひ雨のく矢を射せさる。彼沙門官司側の岳おまて
 袖をお振ぬ。賊方より射る矢お及て賊後の方へ向ひ却て賊兵を射る。又
 是が射射小者多。賊軍大少残れ是れ更あつと。恐惑ひ倍乱れ
 解走るふと。官軍、弥勇と立大軍潮の湧か如く追進む。其勢ひ決然と
 當り風頻強く吹く。大基盤具高九亦り敗る味方小銃れ。己が
 陣を臨んで敗走さる。然る悪路王も如何せん意昏迷して途方と失ひ己が
 船陣も退ど却て官軍の方へ馬と近入る。田村九が麾下の勇士も追取こめ
 て馬より曳落しおり重てど。田村九大少悦び此機に乗じて濱手追
 追結よと下知を傳へ自身真先馬と疏させぬ。弟大呂以下の三將も諸勢と
 勵し。お濱手へ追進する。賊將高九大基盤具亦り敗率と俱お濱手へ



毘沙門天
 地蔵の二尊
 雲中小頭
 田村九ヶ軍と
 援け
 の人

田村九ヶ軍と
 援け
 の人

田村九ヶ軍と
 援け
 の人



巡着舟ふり乗て陸を漕放るゝと早田村九が軍々来り船を臨み
 散く小矢を射りけれど賊軍殊死急小東岸、漕去んとする小彼沙門と宮
 司西岸小まき虚空を麾けむ忽ち逆風大吹起り船と吹戻し逆浪を
 揚て船を洶上洶下と小を賊兵も大に恐る強死船子们を舳艫ふあせ
 つく櫓擡て弄ひ船を東岸漕着んす高九も後れあらず船擡ふまき船
 子小下知を傳て在ると田村九陸より遙かて五人張の弓小矢を赤番南無
 観世音菩薩此賊將を射りけり行念し終ひを固り管絞て兵と放す
 小其間百間を隔るゝ過ると高九が胸板の正中と背まど突と射通した
 々々も穴勇の曲者も急所の痛手小堪もあらず川中真逆ふ落底の水屑と
 成りる賊徒を頼り切る首領を討て太小氣力を落せ上逆風逆浪の為
 小船と浪間小覆さるゝ溺死しあひの西岸へ吹着られて官軍小討りも有

擒とあるもまうらうらう賊方の旗頭大墓王盤具王の勢ひ宛りて士卒五百人を引
 り曹と脱弓を折り田村九の手降参りる征東使弟右副将俊哲真驚か
 勢も追く小地来り賊徒を討取生捕て今、手小立敵もあらずれど残る賊船
 を悉く焼捨水煉の者小下知して高九が屍を尋水させて首と刻三軍大い勝
 喊を造り猪軍と班りる小彼沙門と官司何地往え更前行方知れん衆人
 奇異の更小思ひ各々不審暗さるゝ斯く軍馬と休め敵の首と点檢する小
 二千三百級小余り生捕と降参の者はより千余人と記しる去程小凶徒亡
 ひ尽しりむ翌日陣拂ひ生捕降人を曳せし國府へ歸陣し賊魁惡路王を引
 出して誅し大熊丸高九が首と小梟木ふけ高札を建て國民を安撫し軍
 卒と諸方へ分遣して残黨を悉く搦捕せ借田村九の胆次郡小八幡宮乃
 社を建高丸を射る弓矢前と奉納し又達谷屋小都の鞍馬寺と換りて寺と

建之と毗沙門天の像を安置し兩所を魚洲鎮護の宮寺とす。倭國中乃政
 吏を執治り方端滞りたり調和し。遂に征東使弟右副使の三將と俱に
 諸軍と從(降人の重主)者と率て十月上旬奥州を發足し都(と)凱陣せ
 られたる誠小田村丸の智謀武勇前代(の)例を定む右今独歩の名將
 くと東八ヶ國の貴賤老若とも知もあぬも感賞せざるはあつたり。斯く
 征東使の諸將十二月上旬(都)改著し真小糸内(と)夷賊誅小伏し奥州
 一四小平鈞(と)音を奏聞せられしを帝睿感淺くを軍功を深し御賞
 美在し疲勞を休む(と)御暇を給りて退出せり。其後諸將の
 強弱を定れさせしふ。大伴弟右副使を誣んで初度の軍と仕損じ寸功も
 なく俊哲真就鳥兩人を田村丸の令小頼(と)租戦功を立就中田村丸(と)軍略と
 回し武勇と逞りて戦毎小勝夷賊の張本大熊丸(と)惡路王高九(と)三兇賊

悉く手づから討取國中の政更まで調和せし吏比類あり勲功あり。睿聞小達
 くれに御感斜(と)も。則ち田村丸を召し東征の軍功を御褒美在し從
 三位小叙し征夷大將軍小任(と)加増の采地を賜り。田村丸大(と)始
 ひ厚く君恩を拜謝し。もつて退出せり。次小藤原真就鳥(と)百濟王俊哲
 茂(と)召して忠賞を下され。独大伴弟右副使(と)微功ありを御恩賞の御沙
 汰なく閑居させし由の詔命下り。田村丸表(と)奉り。今度奥州の降人
 る大墓盤具(と)兩人(と)夷賊の種類(と)見所ある者(と)小糸(と)凜(と)兩人を助命せ
 られ小官を授けし。奥州小住居させし。重(と)夷賊の乱妨せん(と)取鎮(と)小
 大(と)便(と)成(と)を(と)奏聞(と)せられし。帝此(と)議如何(と)あり。群臣を召れて
 勅問あり。小公卿の中(と)大伴弟右副使(と)縁者有(と)今度の御沙汰(と)弟右副使(と)功
 ありを以て閑居仰せられし(と)悔(と)田村丸(と)拔群の昇進(と)を妬(と)て降人を助命

せん願を言妨人と御評議の席に進み出彼降参せず夷賊御助命の儀を
御無用とぞくゆふ其故は元来夷賊を禽獸とひくく多慾殘忍なる信義
を知らざれば天恩と忘却し虎狼の心を生ぜん更治定小渠門を奥州へ放ち
取しむらん虎を山林に放つて却る後の害は遺を理しては只誅一の
こそ並るやうくとやれども帝も理りし思召遂小誅戮在るは定より大墓
盤貝とも河内國杉山に於て死罪を行れ其余の降人小田村九の乞ふ任せ悉
く助命ありと奥州へ放ち歸させむなり

延鎮結西脇寺持 田村九建三清水寺條

坂上田村九東夷征伐の大功小因官位昇進し御加増と給り家敏系承
の時を得られし喜悅限りは是併かゝる觀音大士の加護方小因所あり
と東山の延鎮が菴に到られし延鎮は己小觀音の像及び胎之地藏を

門の像をも彫刻畢り田村九の飯洛あると侍居るも大悦びて迎請し無
事小凱陣ありと賀し多小田村九延鎮小向ひ今度奥州の夷賊を伐平け君
の御感小預り官位昇進し面目を世小施せし全く我力小ありと帝の御威光
と觀世音の加護方小因とらなりそれ小就て不思議の一義あり我奥州に於て
夷賊と合戦小及しとら何回よりともあつと一人の沙門一人の社人と覺れ人出
来り忽ち大風を起し賊軍と吹仆し又袖を振を敵より射る矢悉く飛及
て却る敵軍と射しめ賊軍大り恐きて幣走り濱平なる己が船へ逃乗し
風味方是を追ふ大川のやうに到るも夷賊の船を漕去んと己小中流まで到
り小件の沙門宮司と忽ち現き出平とて虚空を麾けし再暴風吹起
り逆浪多し賊船を漂しぬ是小依て我賊軍を射落し夷賊を伐平す更
を得軍勢を班めて彼沙門と宮司と尋捜しむる小何地へ往久更との行

方とある者か。情思む是神佛の應化とや在り久最不思議の更あらずや
と語られん。延鎮は膝を拍て感嘆。実難有御更な御物終小就て思
合と更とて拙僧御助情小依て觀世音の像と刻も余れる杖を以て御
之の地藏多門二像と刻もいた。然小一日地藏多門の二像と拜もいふ
更小や両像とも御足泥小塗る。依て不審暗といひ。今この御物語と承り
始り疑ひの心と開れ其時の沙門之此地藏菩薩宮司ハ此多門天なりと佛
向を用く西脇を以て。偕再曰此二尊ハ小觀世音の化身小最利益多
公の信心通して二尊遠く奥州まで到り公の軍と佐け朝敵と降伏し由り
也。偕こそ木像の御足泥小塗れるふと。感涙ともみ語る小。田村ハ信心
肝小銘じて觀音至及地藏毗沙門を恭敬禮拜して佛恩を謝し奉り。延鎮の
彫刻の至妙を賞美あり。此ハ佛恩報謝のより堂塔と造るを命じ契約し

て歸館あり。普く良杖を買聚て音羽山運送させ。財物を格と百子を劾して
堂塔舞臺樓門坊舎鎮守の社殿のりす。玉で磨れて出魏く大伽藍を
建立し。千手千眼の觀世音と本尊と。地藏尊多門天を西脇士とて安置せ
られ。山上より清淨なる飛泉流き落ちる。音羽山清水寺と号し。延鎮と
以て同基とせれる。出也より以て来一千有余年の今ふり。道堂塔の壯麗
古小変らざ。法燈永く無明の闇を照し。利生千古一如なり。當寺の本尊小
祈誓する人脚利益と蒙らざるは。感應ある更御音の物小應む。如し。戒
小觀世音大慈大悲の誓何さ不疎か。とて。殊小清水寺の觀音菩薩垂
と。靈驗あり。本尊を都鄙の貴賤歩と運。更日夜絶間ハあり。事
乾臨閣御遊緒。継昇進。老人壽星出現大救事
星霜中移。延曆二十二年壬午年の六月。例より暑氣皓く。桓武

天皇群臣と侍て神泉苑小御幸在。納涼の御遊を催され御入真あせられ
 因小曰天子の御遊行を御幸と申古く古く君王御遊行ある所の人民おそれ
 禄とよ(賑)の由(民悦び)君王の光臨(おふを幸とする)お基づき
 て天子の御出遊を御幸と唱(あせり)す此林始(えん)り天子の御出遊を御幸と
 書仙洞の御出遊を行幸と書(く)も小和訓(わん)のみおた(り)續(つ)り

抑神泉苑と申平安城始て成就せし時周の文王の靈圓(れい)小准(じゆん)八所四方乃
 池を堀築(ほり)死池(し)中(ちゆう)小社(しゃ)檀(たん)を管造(くわん)して八龍王(りゆう)を鎮祭(ちん)り故(ゆ)小早(はや)魁(けい)の
 小(こ)神泉苑(しん)お雨(あめ)を祈(いの)る(必)む(重)重(じゆう)魚(い)あり(儲)池(たく)辺(へ)小殿(てん)岡(おか)を建(た)乾(かん)臨(りん)岡(おか)と号(ごう)
 あり是(こ)且(かつ)い(く)帝(てい)六(ろく)諸(しよ)臣(しん)下(か)と從(したが)て乾(かん)臨(りん)岡(おか)登(のぼ)り小御遊(ご)宴(えん)を催(もよほ)り
 題(だい)を賜(たま)り公(こう)卿(けい)小(こ)詩(し)歌(か)を詠(えい)吟(ぎん)させ(れ)其(その)後(あと)管(くわん)絃(げん)を催(もよほ)り小(こ)臣(しん)下(か)の
 小(こ)堪(かん)熊(くま)の(人)を(を)と(び)と(れ)の(役)を(命)じ(ら)る(茲)小(こ)藤(とう)原(げん)百(ひゃく)川(せん)が(男)小(こ)從(したが)四(し)位(い)下(か)藤(とう)

原緒継といふ人ありて和琴の役あり即ち和琴と彈トタる小元来緒継ハ雙
 あれ和琴の名人なり其(その)音(ね)殊(こと)小(こ)妙(めう)ありて満座(まん)の(人)心(こころ)耳(みみ)と澄(す)して(は)感(かん)
 嘆(たん)せざる(なり)帝(てい)も緒(ね)継(けい)の和(わ)琴(げん)を深(ふか)く脚(きゃく)賞(しょう)美(み)在(あ)りて天機(てん)殿(てん)小(こ)與(よ)
 させ(れ)小(こ)管(くわん)絃(げん)畢(ひ)りて後(あと)再(また)び脚(きゃく)酒(しゆ)宴(えん)を隆(たか)か(り)て緒(ね)継(けい)下(か)天(てん)盃(はい)を給(たま)り
 され(れ)列(れつ)位(い)大(だい)小(こ)悅(えつ)び難(がた)有(あ)り頂(たか)戴(たい)り(れ)れ(れ)酔(よ)い(た)り(時)小(こ)帝(てい)群(ぐん)臣(しん)小(こ)真(ま)ひ(る)
 小(こ)朕(みづか)い(ま)皇(こう)子(し)たり(時)先(せん)帝(てい)小(こ)太子(たい)の脚(きゃく)評(ひやう)儀(ぎ)在(あ)り是(こ)緒(ね)継(けい)又(また)故(こ)月(げつ)
 朕(みづか)い(ま)太子(たい)小(こ)ま(ま)と奏(そう)り(時)緒(ね)大(だい)臣(しん)朕(みづか)い(ま)の素(す)姓(せい)早(はや)た(を)公(こう)く是(こ)と遮(さ)り妨(たが)り
 然(しか)ども百(ひゃく)川(せん)の評(ひやう)定(てい)小(こ)志(し)を屈(く)せ(り)五十(いそ)日(にち)間(かん)殿(てん)中(ちゆう)退(たい)り(て)昼(ひる)夜(よ)睡(す)眠(みん)す
 更(さら)か(り)敷(し)奏(そう)せ(り)先(せん)帝(てい)其(その)忠(ちゆう)膽(たん)の携(たづ)り(て)辱(は)感(かん)在(あ)り遂(つひ)小(こ)百(ひゃく)川(せん)が願(ねが)ひ任(ま)せ
 朕(みづか)い(ま)太子(たい)小(こ)ま(ま)と(を)朕(みづか)い(ま)不(ふ)徳(とく)の身(み)を以(もつ)て今(いま)帝(てい)祚(そ)を受(う)け今(いま)此(こ)歡(かん)樂(らく)と(を)と
 も偏(ひと)小(こ)百(ひゃく)川(せん)が賜(たま)り(時)其(その)時(とき)百(ひゃく)川(せん)無(な)く(せ)を豈(あ)更(さら)茲(こゝ)小(こ)及(およ)ん(や)され(れ)朕(みづか)い(ま)と生(な)む

者父母ふが而を朕ちんと違ちがはざる者もの百川ひゃくせんの中なかをを茲こゝをを以もつて朕ちん片ぺん時じも百川ひゃくせんが元もと功こうをを亮りやうれ
 也なり今いま緒つた継つぎ若ごと年ねんたうといふも父ちちが忠ちゆう勤きんの故ゆゑをを以もつて今いまより參さん議ぎ小せう任にんする事こと卿けい
 們ら朕ちんを異ちがはむ事こと勿なきと宣のたまひ即すなは座ざ中ちゆう緒つた継つぎを參さん議ぎ小せう任にんじを以もつて今いまより緒つた継つぎ此こゝ時じ
 二十九にじゅうくにじゅうなり父ちちの餘よ功こうに依よつて俄は高かう官くわん小せう昇しやう進しん一いつ座ざ小せう美み目めを絶たつ大だい小せう始し
 厚あつく帝てい息そくを感かん拜はいしを以もつて去さ程ほど日ひ暮くれ夜よありを以もつて殿てん中ちゆう小せう玉ぎよ燈とう數すう
 牙あ点てんト名な香かうを尋たづねを薰くわんくを以もつて金きん殿てん玉ぎよ燈とうの影かげ小せう耀りやうた蘭らん香かう公こう
 卿けいの衣え紋もん小せう芳ほう里り君くん臣しんも小せう樂らくと與よりを以もつて御ぎよ遊ゆう數すう刺し小せう及および遂すい小せう涼りやう風ふう小せう乘じやう
 以もつて大だい裡り還かへ脚あしなを以もつてを以もつて年ねん十月じゅうがつ朔しやく日にち冬とう至し小せう相しやう值ち一いつをを以もつて百ひやく官くわん百ひやく司し大だい
 内うち小せう表へうと上かみりを以もつて朔しやく且かつの冬とう至しをを以もつて慶けい賀がしを以もつてを以もつて十月じゅうがつ朔しやく日にち冬とう至しの
 値ちるを以もつて芽め出で度た度た小せう漢かん土どの中ちゆう古こより身みを賀がせり殊こと更さら此こゝ頃ころ天てん小せう老
 人にん壽じゆう星せい現げんとを以もつて傍たづ天下てんか太平たいへいの祥しやう瑞ずいなりと臣しん下かみ一いつは小せう萬まん歲さいとを以もつて唱となへり

帝ていも大だい小せう睿ずい感かん在あり天てん機き殊こと小せう麗れいくを以もつて紹しやうりを以もつて下かみと宣のたまへり
 天地てんち覆ふく壽じゆう時じ小せう順じゆんひ氣きと播はつて皇かう王わう享かう言げんり物ものを利りをを以もつて私しをを以もつて
 朕ちん寡くわ昧まいを以もつて鴻かう基き小せう嗣し登とうり方ほう類るいを撫ぶ養やうをを以もつて政せい道たう洽かつれを以もつて無なし
 方かた小せう思し南なん薰くわん惠ゑい澤たく未まく淳じゆんくを以もつて尚かう東とう戸こ小せう慙ぜん比ひ右みぎ司し奏そう称しやうすを以もつて
 老人らうじん星せい見けんると又また今年こんねん十月じゅうがつ朔しやく日にち冬とう至し也なり百ひやく官くわん表へう賀がて曰いは軒けん轅えん之の年ねん宮きゆう
 鼎てい社しゃを早はや陶たう唐たう之の世せい金きん精しやう圖とを表へうとを以もつて私し昔しやく之の小せう天てん之の祐すける所ところ古こ今いま寧ねい
 殊ことかり可か久く可か長ちやうれ功こう不ふ言げん而を方かた小せう至しり太平たいへい太たい同とう之の化け不ふ言げん自みづか成じやう朕ちん
 慙ぜん思して凱かい澤たくと施せ難がたれを以もつて天てん情じやう小せう答た自みづか延えん曆りき二十にじゅう年ねん味み爽すわう以もつて
 前まへの徒と罪ざい以下いげん無な輕けい重じゆう悉しつ皆みな赦しやく除じゆく八はち虐にやく故ゆゑ殺ころ強かう竊せつの事こと犯ひり私し
 小せう錢せんを鑄しゆう常じやう赦しやくの所ところ不ふ免めんの者もの赦しやくの限かぎ不ふ在あり云いふ
 右みぎの銘めい書しよと普ふく緒つた圖と巡めぐりを以もつて天下てんか大だい赦しやくをを以もつて行いひを以もつて是こゝ小せう依よつて緒つた明めいの

罪囚牢獄を出し救され悦ぶ妻太夫ありて皆帝の御仁徳を称し先非を
改り正路小飯りたる故小御代益壽平小て万民業と樂し日月相照し五穀豊
熟し多し斯く年月推移り延暦二十二年の春とたりたる小二月の比より帝御
不例小くせむひを緒卿百官大心と痛め和氣丹波の医官小命とて良
方と撰ませて靈薬を献りぬ神社と奉幣使を立佛院小御心平愈の大法
秘方を修せりせられたる然小陰陽の博士勘文を上り今度の御心平愈の為
と云ふ小いと奏す小緒卿高儀ありて諸公尚早良太子の怨靈の祟り
たる也其憤靈を鎮んて區小儀せられたる帝御食て大臣を召れて宣
ひるハ朕今般の違例を早良太子の怨靈の祟ありと儀を言ふ是公の
外の僻吏たる彼太子の憤靈ハ已小先年一社の神小鎮祭り其靈を宥めり
以來絶く崇とあまらず然小年月久くして今も朕小崇をふと謂わん由

あれ義小國の財を費さんより鰥寡孤独の窮民小米錢を与へ施と下と
勅詔在るれ大臣達大心感伏し其勅詔のちを緒司百官三渡
一普く鰥寡孤独の者小米錢を施されたる其御仁徳小所小や月成追
て御心平愈あせむひを上下皆万歳を唱て悦び其翌年延暦二
十五年丙戌の春帝七旬小あせむひ小御老年のやきて御心とやると
の御更もたす只後初小少御のひ小三月十七日遂小山明御たりのひ多親
王女御緒臣下ハ心を更たり此君の化沢を蒙り天が下の万民皆赤子乃父
母と亡ひしとて涕泣せむハあまらる斯て尊嚴と玉棺小収り山城國紀伊郡
柏原の山陵小葬りせられたる御在位二十五年宮内年七十歳とてやせ
のひ多皇太子方百官百司未の輩まで諒周小覺り御忌明て后緒卿詮
議ありて皇太子安殿親王と帝位小即せられたる平城天皇手て中八此君たり

平城天皇御即位 讓位 嵯峨天皇受禪南都擾乱

人皇五十一代平城天皇と云々。桓武天皇第一の皇子小て。御諱ハ日本根子天
排國高彦尊又の御名ハ安殿親王御母ハ藤原乙午漏と云々。藤原の
継公の御女なり。御即位の大禮を行はれ延暦二十五年と改め大同元年と曆号
と改元あり御弟宮神野親王を春宮小まの御外祖内大臣藤原冬繼公ハ
正二位大政大臣を贈りゆひたり。此帝ハ天性儒學と好せゆひ又詩文小長じゆを
御踐祚の始より大學寮を儲け諸皇子及び五位以上の子息十才小成ぬきを
學校入せ經學させゆひ又有司小詔命と下して宣く。今世上ハ妖僧奸巫の徒
多くと。神呪占文小托と云々。妄小福を説禍を唱へ愚昧の庶民婦女の徒を
惑へ賤帛と貪り取故小愚不肖の者妖僧奸巫の言と信して國風を損へ正道
を不知甚と云々。茲に云々。自今以後妖僧奸巫の徒を堅く禁すと云々。

のより六道の諸國ハ觀察使を定めゆひ守護國司諸官吏の私曲惡政と略
く緘めさせゆひたり。先東海道ハ參議從三位藤原高野九西海道ハ參議從
三位藤原源至山陰道ハ參議從四位藤原緒繼山陽道ハ參議正四位下皇
大弟傳藤原園人北陸道ハ從四位下杉條安人南海道ハ從四位下吉備朝
臣泉等たり如此万機の政道正しく三綱五常の道を推弘りゆひ万民悦休
て四海波靜小いと昌平の御代たり云々。忽ち不時の珍更出来たり。其故と探
りて小帝の御弟伊豫親王と云々。先帝祖の第四の宮と云々。又帝殊更御寵愛の
宮と云々。其御威光皇太子小おきと云々。劣りゆひと緒人尊敬と云々。常小緒方乃
使者門前小市と云々。自出度富榮のひたり云々。先帝崩御かゆひ。後日小御
威勢衰小伺候と云々。公卿も次第小減と云々。方更寂寥と云々。成行と云々。伊豫親王
御心快と云々。樂と云々。諸更衰微と云々。就と云々。往日の威勢隆と云々。更と

思ひ出され御母藤原土子とよみ移り変る世を恨み帝の御威光と美しき如
 母子とも心頭を焼されたるが憤念積りておろげなるぬ大望を思ひまのし帝
 を傾け奉り我万乗の位を踐みまし不軌の企を心お生せられけるも大切乃義
 めれ猥り口外もむづご其更となく時緒卿の心お引試して是彼と荷
 檐の人をささひりひるる。其中小藤原宗成といふ人あり生得ま慈おく他人の
 富貴を妬み其身の威権を降んおせんとみより更多年あり此頃伊豫親王
 の為体大更と思えおん機あるが察し是寔責の更よと思ひ辨と親く
 親王の起居と訪ひ進せ物語の端お先帝の御代おさしも時めぬ采のいお
 今の帝の御代とたて君の御威光ハ漸く薄しお行候とる公卿も稀くお成
 行い更の御痛くさよ先帝ハ皇子あまご御座在中おもとる君を御電愛
 在し。皇太子おもさるおむらるる睿慮おておろくると内大臣冬継其身外風と

成て威を震んと帝と中惑ハ我女の腹お出生在安殿親王を皇太子お定
 めて勸めましや帝も冬継の約おませまし安殿皇子と儲君とかりおいし
 先帝の睿慮の俣あむる君と九五の位を踐みひさごと井出度おりやまべ
 らおあんと御謀叛を思えおんと言ひぬるもや更度お及たれを伊豫親王を
 渡お船を得るごく大お悦びのい遂お心術と明しおひて宗成と家謀を示
 し合のい内おて甲冑弓矢を取寄忍心お緒國の武士をささひりひるるお好
 事門を出せ悪事千里をまらるおひ早其風貌所お小繼敵とらると右大臣
 内上石渚度て是ハ大更の義おあて致れられもいさご実否をましお乳をすいそ
 奏達せんも如何。猶口外もせご世上の風聞お窺れらるお内上呂の縁体おる
 播磨國の武士何某親王より味方お頼とるおしと書る宗成が密状を持参
 して密お内上呂お呈しるるお皆世上の風貌疑おむらおあむとて急お泰内

伊豫親王隠謀を企めんと奏聞ありしを帝大に疑はせり。然る先宗
 成を賜り寄て搦捕執向せりと宣ふ。内大臣領堂一宗成が方へ使者
 を遣ひ朝廷の政変不就て急命せしむ。義あり急いで参内ありて
 々々天命の尽るところ小宗成己が密謀は偽りとハまがめあつて
 召し心得何心なく参内し多と兼、屏風の蔭に隠れ居る武士ども
 矢上庭に捕て伏牛料と搦め。右大臣斯と言上りたれを即ち右司の
 手(曳)させ緊く執向せられしを宗成陳謝の約なく適まがると覺期
 親王の御頼小依て己更と得ず荷擔せし旨と白状し。自余の一味の
 輩の名まぐ逐一小やぐる。是小依て先宗成を禁獄し。親王と擒せんとて
 在將安部是雄左兵衛督巨勢野足兩人の官兵百五十余人を差添親王
 所を取囲せしむ。親王斯とまをひて大に疑はれし内々の隠謀早露
 顯せし

あめと強だ惑ひ是ハ如何せん。躊躇去むうち。武士ども追くこ
 入親王を
 御母吉子と虜ふ。籠の男女も残れしを捕右司の廳へ曳し。斯て帝ハ
 群臣を召して御詮議あり。親王母子と川原寺の二房小押籠厳く
 監禁と置て守らせり。諸藤原宗成ハ逆意と勸り。大罪あれど、
 殊戮させしむ。此れあはれも先帝崩御のひいていさ。幾程もあはれ
 せしむ。死罪一等と省佐渡國へ流罪おせし。其余一味の輩ハ罪の輕重小
 從ひ流刑せしむ。追放しゆら。諸も親王母子の密謀の露顯せし
 恨み憤りも俱に飲食と斷終小母子とも川原寺に於て餓死
 せしむ。良太子の例を知りしあが。人倫の道を弁む。天の
 命ぬ王位を望む。御身のみあはれ。母堂を先く親族他人
 せしむ。禍を及し。不弟不義の惡名を遺し。十載の青史を汚し。

小菟逆の徒亡びて都の強動も静りしを帝ハ朝政小心を委めて諸
 國より訟るとその約訟を盡く御身自判断せり罪を睡く賞と
 重くかりひたる也都鄙の人民奉て帝徳を賛美する大同二年醫官出
 雲廣負大同類聚方百卷を撰で上りたり日本医書の始なり帝大に
 賞感有り重く賞禄を給ひぬ然小伊豫親王の怨靈頻小宗成り種く乃怪
 異を見人民を悩め諸人は是為小死亡する者多し皆大に怖れ愁多
 大同四年の正月より帝も親王の憤靈の祟りて御怒度くお及むせり天下乃
 政事と裁判かきもも懶く思召遂小室位を下らせり帝祚を春宮神野
 親王小護せり御在位僅小四年なり儲神野太子御即位在り大禮
 次執行せり此君を人皇五十二代嵯峨天皇と申せり桓武天皇第二の皇
 子小御母平城天皇と曰母なり御踐祚の後先帝城小太上天皇の尊号

を奉りて大同四年と改め弘仁元年と改えあり其年の秋太上天皇乃御
 望ふより奈良の田都小宮室を造管あらんとて緒國より工匠を諸職人
 二千五百人を召上り坂上田村九藤原冬継を造管使し藤原仲成を
 奉行とて経営と急がせり小宮殿速小成就し同年十月太上天皇平城
 の新宮遷幸なり小不就院糸の公卿皆供奉せり其後嵯峨天皇も
 平城の新宮鳳輦と環しりて宮室の成就を賀し是朝觀の御幸大
 起源なり此年右大臣内大臣小紫の朝服を勅許あり是大臣此朝服を著
 する始なり然小太上天皇も聖明の君ありき伊豫親王の怨靈
 障碍をかりたる也平城の仙洞遷りり後ハ放心去りて御僻事
 多き以前明德薄らぬ御在位の時より電愛あり藤原仲成が妹の尚
 侍茶子とて容顏美麗なる婦人有るなり此茶子容貌を衆小勝れし

貨倭奸あはれて己お劣せれるハ悔あはれリ己お勝かちれるハ妬ねたミ奸智うんち逞たくましくを言ことと巧たくましく色いろと
 令ことして帝みかど小媚こまへ脚電あしづゑ愛あい小誇ここらて万よろず吏しを只ただ入いれ仙洞せんどうの脚政あしせい吏しハ大小たうたうとなく茶ちや子こ心こころ
 任まかせおつたて非義ひぎの吏しの多おほれども君きみの脚意あしご小叶こは女めあれむ否いな難がたをり人ひともあ
 く却かへて院いん泰たいの公卿こうけいハ皆みな茶ちや子こ小賄こまへ賂ろを贈たまり其心こころ小合あん吏しと欲ほつする吏し茶ちや子この
 威勢いせい追おく盛さかふたりさかから中宮ちゆうぐう女脚にょけつの如ごと加かえりて茶ちや子こ兄あにの仲成ちゆうせいもす邪智よち
 奸曲けんきよくの倭人わいじん小て妹いもうとの権威けんゐを借かり身みと矯あやり諸人しよじんを土芥ちがひの如ごと直下ちかし己お阿あ多た貴き
 君きみ前まへと善よす小こすす己お彼かるハ君きみ小統ことうして官位くわんゐと損いへ偏ひと唐たうの揚やう國こく忠ちゆう所しよ
 行ま小異いちときんも大上たいじやう皇且すうじゆを咎とがめむと忠臣ちゆうじんなりとの思おもひおろろと薄情はくじやう
 仲成ちゆうせい曾そて民部みんぶ大夫たいふ江人かうじんの女を取とり妻室さいしつとろ其妻そのさいの姨いへ小
 被衣さいいとて容顏ようげん麗うる々々女をありて或ある公卿こうけい小嫁よめて在ある仲成ちゆうせい一度いちど被衣さいいと見て懸想けんさう
 夫おある女をも悼おぼらせて數通すうつうの艶書えんしよと贈たまり又またハ對面たいめんする折せハあつけ小こ口鏡くちがたとき

どの被衣さいいハ夫おある身みの貞操じゆうそう正ただし女をあれを更承さら引ひと難面がためんこのとち過ある仲
 成果せうかハ堪たへ一日いちにち被衣さいいハ我わが館くわんへ来きりと強いて一室いっしつハ伴ばんひ行ゆ百般ひやくぱん鏡かがみとき女
 小猶なほ小辞こととき仲成ちゆうせい怒いかりと女を引ひ伏ふ乘せりと刀やを被ひ其胸そのむね小こ當あ你あなた我わがハ斯しか
 程ほどまで口鏡くちがた小こ猶なほ小こ心こころ徒たへと今いま一ひと刀や小刺殺さしころし你あなたハ夫おを君きみ小鏡かがみと重おもく刑つと小
 行ま小こ言こと劫せきとき女を只ただ注洗しゆせんと左右さうぶのと在あると仲成ちゆうせい理り不ふ小
 姪めい一ひと辱はれ其その伎ぎ苗なめ置おき遂つひ不ふ己おが妻さい小こ仲成ちゆうせいの夫おを且かつをきて深ふかく
 仲成ちゆうせいを恨にくみ憤いらいまと君きみの脚意あしご小入いれ茶ちや子こが兄あにあれを綸りんとき却かへて讒害ざんがいと
 且かつ人ひと吏しを慮おぼり無念むねんなと其その伎ぎ小置おき是こゝホの悪行あくげうの外ほか不義私曲ふぎしきよくの所
 行度ぎやうど重おもりと諸人しよじん内うち茶ちや子こ兄あに妹いもうとを忌い悪にくむと法はふ不ふ嵯峨さあが天皇てんかうを
 いちがち春宮しゆんぐう小在あると頂たうより茶ちや子こが奸倭けんわあると知しると渠かが如ごと如ごと姪めい
 悪あくの妬婦とふと君きみの脚側あしがは侍しやうしてハ始終しじゆうの脚あし為な軍ぐんときと折節せつせつハ練奏れんそう

領し榮曜歡樂を心の依り。子孫の後榮を計らんとの天の照覧を不顧し
て。密く小近國の武士小院宣を傳へ上皇の御味方小招れども思ふ。これ隠
るより頭あるはなるとの誘宜あり。上皇御隠謀の密吏維く洩らん早
くも平安城の帝闕へ入るを帝大御發をせし心だ坂上田村九を召し火
急小平城の旧都へ馳向ひ上皇小御謀叛を勸めさせ奸佞を悉く搦捕て立
絞る事と詔命あり。ふと田村九領掌の參議文屋綿九を副將とし官兵
二千余騎を引率し都戎發足せし。上皇小宮を尋ねんとて。兼
く思召去年唐より帰朝せし秋空海にあり。御依僧あれ。空海を召れて
今度の擾乱速小平定を命ぜらん。東寺小八幡宮の社檀を建綱小行とす。
命と命のひんれを空海勅命と奉り。即ち東寺小社殿を建八幡宮と勸
請し。朝敵降伏の秘法を修せし。今東寺の八幡宮是なり。去程小

田村九を武略小頼丸大將あれども。太上皇奸佞小勸られし。他國へ
落させり。更しやと慮り。途中より軍勢とみて淀八幡山崎宇治初瀬其
余切所毎小差遣し。自身綿九と俱小探れんと。平城へ進發せられ
る。此義早く平城へ入る。上皇大御轉動し。いづれ味方乃武士
来し。敵は此宮門へ引受て。防禦せん。是は如何を命ぜ
ると。急小仲成を召れ。御高議あり。仲成もやと火急小密吏霞顯
を命ぜり。思召。頗る心周障あり。君小向ひ。如是。小君一旦近
江路へ落させし。伊勢へ。其間小臣味方の武士を招れ集
め旗を翻へ。京軍と一戦し。聖運を用せんと。落着真小奏し。上
皇其討小徒ひのみ。女子及び女官をも召具し。取物とり。更む。省衛
の武士小召連。龍駕を促して。宮中へ出川の路より近江路をき。

落ちのり。仲成も有合手勢七十騎を従へ、武器不身と堅り、是も平城より
 至て東國へ入ると馬と逸れ、馳行する小程なく田村九軍と率て追蒐来り
 十里小唄音、大喜と上奸賊仲成走る、更勿き坂上田村九勅命、小依て向
 と呼ぶる。其声雷霆の如くあり、れを馬ハ此声ハ怖きて、弛り得ざる。症
 不成て嘶く。仲成も頭上より雷の落くる如く、覺へ馬上小戦慄た、あが馬
 残拍て逃んと身と操るも、早田村九勅命を早きて追近看み、仲成が半
 の者主を落さる。廿騎をより抜連ておてくる。田村九勅命とて例の大太刀
 抜て、あ雷光の如く閃めりて、一太刀小二人、三人、難居るを、残る兵士ホ大不
 怖き、蜘蛛の子と散らぐ。主と捨て逃散り、其隙ハ仲成ハよき馬と、
 せと逃ると、田村九馬と、犯して追看猿臂を伸と、小兒の如く、掻抓と大地
 唾と投ると、余り強く投り、おや、仲成ハ五臓砕け、其血を吐て、ぞ死し

たり、王と討て、郎黨ホミ皆散る。小落失れ、田村九ハ仲成ガ死と馬
 小結付て曳せ、仙洞御所へ引返る。且、上皇、和州添上郡まで到り、所
 小前路ハ右近衛住吉豊継一軍と、屯して道を遮り、塞たれ、進むるも、
 能とせ置置の方ハ敵有と、安え、其四方の出口、悉く敵軍固め、よりあれ
 なく、又とどくと平城へ環らせ、およ、己ハ京軍充満、諸卿、諸官人、
 唐勇おせ、れ由、安え、るおより、上皇途方、昏め、らる。田村九、乘て、以て迎へ
 ちり、茶子と俱、小常の御殿へ押籠、中、番兵、四方を、衛護せ、隠謀の
 余黨を、取、く、尋、搜、し、らる。上皇、今、更、御、後、悔、在、陳、謝、し、も、
 おり、ま、ま、の、を、俄、小、脚、髪、を、剃、拂、せ、の、御、出、家、の、体、お、せ、
 け、り、ら、る。奸、婦、茶、子、ハ、此、脚、有、さ、ら、ん、と、我、身、の、罪、科、免、せ、
 察、し、遂、不、自、ら、刃、小、申、れ、て、死、し、ら、る。天、野、の、程、を、浅、猿、
 斯、て、田、村、九、綿、丸

以下の緒將諸軍小虜と曳仲成が屍を昇せし京都へ凱陣し妻の始末を
 奏聞しを帝諸將の勲功を御賞美在しと云く忠賞を給り虜の
 輩と乳問しを今度御謀叛を勸めしに茶子仲成が所為ありと皆白状
 し衆口はどくりを仲成が首と刻きて梟木に肆させ茶子の屍は野外に
 捨てしを以て其餘擒の輩八罪の狂重に從ひ或は死刑に流刑追放亦行は
 せしひたり春宮高岳親王二点の罪もありまよども上皇の皇子ありし御
 身を愧むひ位と辞し御出家ありて空海和尚の徒弟とあり法名と真如とを
 改めしひたり是亦依て桓武天皇第三の皇子大伴親王と春宮小三ひたり
 後小淳和天皇とやなるは此君たり抑藤原仲成は職冠鎌足公の後胤にて
 正三位藤原宇合の曾孫贈太政大臣維経の嫡男にて氏素性正に名家の
 種なりたるは一時の虎威亦乘り及ぬ望を起し君小隠謀を勸め奉り凡妹

とも天年と終ど首と梟木に掛られて鳥鳥は啄まれ屍を野外に捨てて狗狽
 の餌となり臭名を万代に遺せしも皆其身の不良より起る所なり慎み恐るべし

天皇賀賀茂齊院御幸 有智子齊院詩作條

弘仁二年嵯峨天皇の皇女有智子内親王を以て賀茂齊院と名け伊勢齋宮
 小准にも賀賀茂小齊院を置るは始なり此有智子内親王と中八女儀ありし
 御幼少の時より文学と好むひ御幸若く在と頃已に和漢の書籍に通じり
 兼て八詩文を善くするひたり也御及帝殊更鍾愛しひたり後年ひより私
 十四年の春帝賀賀茂の齋院の山荘御幸在し花の宴を催しひ春日山荘と
 題を出され供奉の月卿雲客小詩を賦せし夏亦依て列位韻を探り礎を定
 る小有智子齋院も塘光行蒼君の四字を探得しひ少時のうち小七言律乃
 詩を賦しひ即時小箋を拂て毫を添し二座の公卿其連たり或は疑は感

る帝も龍顏展くより寄て御覽ある其御待ふ日

春日山莊

寂く幽荘迷樹裏
棲林孤鳥識春澤
泉聲近報新雷響
從此更知恩顧渥
仙輿一降一池塘
隱澗寒花見日光
山色高暗舊雨行
生涯何以答穹蒼

時小右智子公主十七才ふどありける帝再三吟ふりて甚は御賞美たり

の御感のあり宸翰を渾の懐と書して公主小給く其御製表小曰

恭以文章著國家
即今永抱幽貞意
無事終須遺歲華

此日公主小三位の位を授めひ百戸の采地と進せりひたり其後天長十年小二位

小叙し其後存院を下のして嵯峨の静雅の山莊を宮とせし授任のひ雨

小風月と翫び給ふ承和十四年小春秋四十一才おと薨去りひたり御遺言小

其葬式薄し無益の更ふ世の財を費と更ふ事とられく宜ひいとを誠中至尊

の皇女小和漢例少なる賢女おとありける却て鏡弘仁二年の夏大納言右

大將正三位坂上大臣新田村九栗田の別荘小於て薨死去有るり通齡五十四

かりの帝甚は惜ませの勅使を立絹布衣錢亦と若干給りたり又勅詔あり

て其亡骸小甲冑と看せ劍鉞弓矢前等と添て棺小収め宇治郡小栗栖野小

於る王城の方向りめて葬せりひたり是其威靈小永く帝都を護せり人

との睿慮とをたまえける前にも詔て此田村九古今独歩の人傑小て智仁

勇三徳兼備せ朝廷の名臣と称せりも強大あり魚洲の勇賊を二戦小

伐平け其以後も貞剛及び東國小及賊ある度毎小田村九勅命と奉りて地

向く小賊軍田村丸が下向とて其討ひがたを知て戦さる以前に退れ
去或を降参し適拒敵者滅亡せざるは一年上皇御謀叛の功少藤
原仲成を追蒐て一声呼りて其声小恐して仲成が馬症を主ハ戦慄して働
く斐能ハまり成て其威武を知り昔晋の世小蔡喬とて其豪傑ありて
力量膽畧衆小勝と声雷の如かりたるは蔡喬袁州の刺史とたりたる比天
下小名を得たる強盜二人蔡喬の家へ竊入て其財を偷取る梁の上小身と
潜ひ穴規ひ居る小蔡喬喬是を知て床を拵て大音小用賊大膽小由我賊と偷
んととやと呼りてを二賊其声小疎れり梁の上より下へ倒と落北とて
起斐能とて蔡喬大不笑ひ儲も臆病ある賊ともうか今ハ一命を助け歸り
得まると再び我家へ忍入斐能勿疾く歸去と言れども二人も脚痿とて去
得と春蝸たるとふと蔡喬喬入りて二人を拘りての如く両手小抓提り門外へ

投出されむ入の強盜ハ頭をく後成もえどて逃歸りてとされども
是とて又程の勲功もせえと田村丸の神武ハ尚及むとすべ
浅山玄五遭盜難入水 漁夫兵太湖上助浅山事
先帝御の御宇小女僧奸巫の愚民を惑を義を敗系く緘り禁めりしを
其後ハ暫く止る小嵯峨天皇御即位の後すく緒方小破戒無慙乃僧
斥有る往く尾筆の行条有る睿聞小達弘仁三年五月有司詔命在
くハ此比僧尼も僧法を慎まむと犯戒邪淫のほえあて鏡法く終小杜
俗家の男女戒寺院へ引入右等寺の不法を行す公の外曲吏たり外見ハ殊勝
の体不え世実を清浄の道場を汚る斐甚とて自今以後男子猥小
尼寺へ入斐を禁り女夫無故と僧房へ入斐を堅く停止せむと一若尚提と
守も破戒侵犯の僧尼ハ尽く召捕罪の重を糾とて罪科小行とす



皇統記圖會後集卷二

四三

淺山玄吾



皇統記圖會後集卷二

四三

淺山玄吾

淺山玄吾
湖ノ船リ
渡舟のま
命と助
らふ

との更なれを。右司の輩勅命と畏り官吏を乞つて洛中洛外の僧尼寺の
 僧尼の行条を以て破戒の者八百五十余人を召捕皆其罪の狂重に依り
 追放流罪死刑等小行ひたり其中小希有の悪僧三人有て嚴科小所せれ
 たり其犯戒の始末を尋らふ如賀國金澤の産小浅山玄吾と云る者あり生年
 二十六也先祖八系圖正小地を領せり子孫の世とたり漸次小衰微
 所領の采地も估却ひ幽小暮りたるが玄吾が父母ハ早く死去り玄吾ハ独
 身となりひげも妻も迎へれど玄吾つゞく思惟しける扁鄙おて碌くと生と
 過さんより京師へ上り新法能を習覚れを言立何方の公卿へありとも奉公せや
 と思立家宅私財を賣て些少の路銀を得任則古御と立出只入都を
 志して旅亭へ往りて近江路へ出で各小負琵琶湖の風景小同を悦む湖邊と
 歩いて行り志賀の里も近ある頃日己小黄昏小及び往來の人小稀小成

るれを玄吾ハ宿を求め急ぐ折もあれ忽山下の茂村の内より四五人の盜賊頭
 出出玄吾を取圍て有無を言せむ理不尽小衣服を剥取路銀をも奪
 ち赤裸小たて猶踏つ蹴つち擲し何個ともなく逃去るる玄吾ハ夢
 見心地に杖柱も憑り路銀ハ一錢も残らど奪れ衣服も剥取り
 鼻禪一と成ひと悩む忙おるるが夜嵐の身小まむ付心小思ひくると
 我都小親類縁者もた朋友知音もあらず赤裸小たて上るるも
 食せんや外小せんを金かおま中ある望を護り妻を及や身小宿運の
 尽あるを今中く世の人の恥を肆さんも朽惜所詮此湖水小身を沈めて死
 んとの涙も佛名を唱け合掌して湖の中へ身を沈めんとて飛込るる
 命數いづか尽るるや折れ一艘の漁船漕来り人の捨身せり沈るるを
 水中に起だせ吾と右手の小服小抱へ立遊と我舟へ上り傾て玄吾水と吐

耳小口を寄て敷声呼活々るふと入水と幾程も間をたへて頓く息吹く
 二縣リ々る漁夫も舟を小者小潜せ其身ハ用意の事を探出して吾小服さ
 湯一丈て双抱しさるるも如何ある更ふて捨身せしめると問ふ吾涙あ
 國を出て都上人と盗賊遭て衣服金子を奪れ方あさふ投身せしめて五
 一十と語るれを漁夫ハ其薄命と哀れ借これハ懊悩ある更ふ此比此辺の山下
 盗賊隠栖る毎夜旅人を剥取の噂も黄昏よりハ往來する人も和殿
 遠國より来りさる更もさる通られぬ盗賊剥きまゝありぬ左有むとて賊を
 世の廻り物かり身と投て死る更や有死先我家来り氣を鎮て保糧せん
 よ左も右もして京へ奉公せしる中ふけの進をたぐと世小頼母く言々も
 吾ハ地獄ふて善菩薩の遇一如く大業悦び其深情をわねれ謝しる漁夫も
 吾小やと身小纏ハせ火ふあてせむとすうち船ハ堅田村なる漁夫の家の中へと

著る。斯て小者船と繁れ漁せ魚籠と網と成推へ漁夫も擗擗とらげ
 玄吾と伴い。後戸を圍て我家へ入小女主のんをさる。鯨夫なる。諸至相と
 小者小命と成電の下と焚せ其身ハ古紫衣ととり出と玄吾小着せ。問ハ程
 小業歩きて俱ふ火あさる。借も和殿の生願ハ何國小て何の京へ上とらと
 向をれ。玄吾各て我ハ加洲金沢の産小て浅山玄吾と呼る者小てハ先刺
 告さる。若年小て父母ハ死去扁鄙の住居も懶。都へ上り何の養方とらも
 習ハ相應の奉公をせ入る。家宅綱度松枯却て路銀と。都と志とて此國
 て来り。針小を盗賊小遭て此時宜小及いけと語る。至弱とて其ハ難流
 更ふさる。その怨とせれお。さる。如く浅猿た漁夫あれ。我ハ以前ハ藤嶋
 兵太とて武家の切米と食。者ある。王家退轉の後ハ浪とて産業をた
 此浦へ来り漁を業とて露命と收る。うち妻ハ四年以前ハ死去一人の女と

皇統記後篇卷之二終

如何して向去吾謝と。身の難波の秋を何方して苦くもど。万望官の
 てりりいへ頼るも。自の男点首然も少時待れよと。外の方へ走出るも
 時をく者て一人の男と伴ひたり。去吾向ひて。奉公の官媒せらる。此人は
 日道して往るなりと言わど。去吾主の好意を謝し。彼男に従ひて。楞嚴院へ
 到るも。小堂塔籠たる大寺にて。寺中小傍坊數軒あり。其の中の普賢院
 と標札あり。房へ伴ひ入住僧と何れ然。去吾と呼て住僧小同見せらる。此僧と
 清真と号せり。去吾人品卑るるを。て。國所姓名を問書せり。せり。小珠
 の外達筆あれ。清真の意小通ひ。紀錄即小抱り。言るも。人。去吾は。以て
 思之。謝し。官媒人の男は。歸り。其。去吾。身収り。それ。不安堵の思を。予
 万端小心を用ひて。勤り。る。も。清。真。も。好。家。人。を。得。り。と。心。合。ひ。る。も。

名古屋 大曾根 矢野平兵衛藏版畧書目

增註十八史略	七冊	小學讀本	四冊	尾張明細圖	一冊
四書集註	十冊	同 字 引	一冊	改正 增補 早引節用集	一冊
大 學	一冊	農家小學	一冊	東春井郡地誌略	一冊
中 庸	一冊	日本畧史	二冊	同 地 圖	一冊
論 語	四冊	小學所教授法	一冊	唐 詩 選	一冊
孟 子	四冊	明治用文章	一冊	小倉百人一首	一冊
古文孝經	一冊	幼童必携	一冊	四書字引	一冊
人民 必携 公用文例	一冊	日用塵功記	一冊	道二翁道話	近 一冊
日用 必携 證書文例	一冊	府縣郡名録	一冊	說 教道話	近 六冊

